



The Society of Education for Junior High, KAGAWA

香川県立高等学校教育研究会 研究紀要

H29
58

第48回中国・四国音楽教育研究大会香川大会（中学校の部）
観音寺市立中部中学校・三豊市立豊中中学校・ハイスタッフホール（観音寺市民会館）
10月27日（金）



全体会



表現領域 観音寺市立中部中学校



記念講演



鑑賞領域 三豊市立豊中中学校



研究演奏 三木町立三木中学校



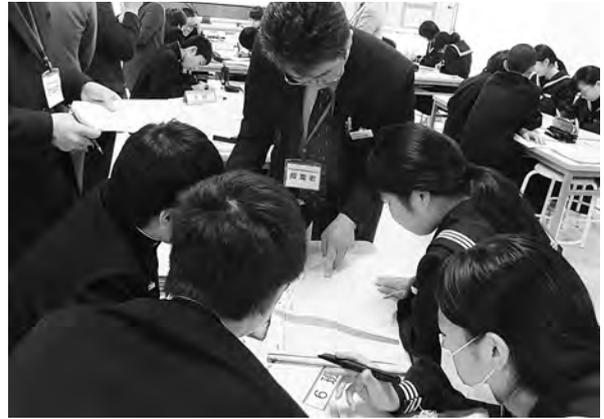
合同フィナーレ

香川県中学校教育研究会国語教育部会研究大会
坂出市立白峰中学校
11月9日(木)



公開授業（「話すこと・聞くこと」部会）

香川県中学校教育研究会数学部会教育研究大会
綾川町立綾南中学校
11月9日(木)



授業風景



公開授業（「書くこと」部会）



授業討議



公開授業（「読むこと」部会）



全体会

香川県中学校教育研究会理科部会研究大会
丸亀市立飯山中学校・丸亀市立綾歌中学校
11月9日(木)



授業風景 丸亀市立飯山中学校

香川県中学校教育研究会保健体育部会研究大会
さぬき市立志度中学校
11月9日(木)



全体会



授業風景 丸亀市立綾歌中学校



授業風景



全体会



授業風景

香川県中学校教育研究会英語部会研究大会
善通寺市立西中学校・善通寺市立東中学校
11月9日(木)

香川県中学校教育研究会養護部会研究大会
丸亀市綾歌総合文化会館(アイレックス)
11月9日(木)



全体会



研究発表



授業風景



研究討議



分科会



講評

目 次

香川県中学校教育研究会 研究紀要

第58号

グラビア (研究大会の状況)	特別活動研究部会……………23
はじめに	生徒指導研究部会……………24
香川県中学校教育研究会	メディア教育研究部会……………25
会長 山下昌宏…………… 1	人権・同和教育研究部会……………26
	学校図書館研究部会……………27
あいさつ	学校保健研究部会……………28
香川県中学校長会	特別支援教育研究部会……………29
会長 津山勝義…………… 2	へき地教育研究部会……………30
I 本年度の研究主題…………… 3	学校事務研究部会……………31
	進路指導研究部会……………32
II 本年度の研究発表と	学校給食研究部会……………33
来年度の研究発表予定…………… 4	IV 事業報告
III 研究報告	本 部……………34
1 研究大会を実施した部会	各 部……………35
音楽教育研究部会…………… 5	各 部 会……………38
国語教育研究部会…………… 7	研究委託……………44
数学教育研究部会…………… 9	若年研修……………45
理科教育研究部会……………11	V 組織等
保健体育教育研究部会……………13	役 員……………46
英語教育研究部会……………15	予 算……………48
養護研究部会……………17	会 則……………49
2 研究大会を実施しなかった部会	部会運営規則……………50
社会科教育研究部会……………19	研究大会開催地区割り当て計画……………51
美術教育研究部会……………20	香中研とはこのような団体です……………52
技術・家庭科教育研究部会……………21	編集後記
道徳教育研究部会……………22	

は じ め に

香川県中学校教育研究会
会 長 山 下 昌 宏

香川県中学校70年の歩みを編集していると香川県中学校教育研究会は昭和36年に発足し、昭和38年に現在の形として結成されたとあり、変遷を経ながら現在に至っていることがわかります。昭和39年度に香中研研究紀要が発行され、回を重ね、今回で58号となりました。この間、教員の自主的研究組織として、香川の教育力向上に大いに貢献をしてきました。

香中研では平成24年度の学習指導要領の改訂に伴い、研究主題を「教職員一人一人の資質能力と意欲の向上を図り、学校の教育力を高める研究会活動」とし、7支部と10の教科部会、12の教科外部会で研究を進めてきました。

この研究主題には、現行の学習指導要領への対応だけでなく、教職員の大量退職に伴う、学校現場におけるベテラン教員の専門的な知識やスキルの伝承、全国学力・学習状況調査や県学習状況調査により明らかとなった香川の教育課題の解決を目指すものであり、これまで、若年研修の充実など多くの成果を上げてきました。

一方で、この10年間、児童・生徒数の減少による学校の統廃合が進み、地域により学校数や学校規模に差が生じてきました。児童・生徒数を見ますと高松市に集中する傾向があり、一部の中学校では生徒数が増加しています。

また、学校が直面する問題も変わってきています。大きな社会問題となっているのがいじめ、虐待の問題です。いじめ防止は学校が取り組まなければならない喫緊の課題となっています。不登校を含む長期欠席児童生徒数が減少しない現状や発達障害等のある児童生徒への対応にも学校は多くの時間を割いています。教員の加配やSC、SSWの配置など対策が講じられてはいますが、教職員の対応力の向上も急がれます。教職員の業務内容が多様化し、長時間の勤

務による心身の疲弊が心配されています。

その中で働き方をどのように改善するか大きな課題であると言えます。香中研としても研究組織や運営方法について見直しを進める時ではないかと考えています。

見直しを進めるに当たり、まず、私たち教員は教えることのプロであり、その使命はすべての子どもたちの健やかな成長にあることを再認識し、将来においてこの国を担う子どもたち一人一人が社会で活躍できるよう、しっかりとしたビジョンを持って子どもを育てていくことが求められます。そのためにも教職員一人一人が充実した研修に意欲的に取り組まなければなりません。

香中研では平成33年度からの新学習指導要領の全面実施に向け、組織の在り方や運営方法、適切な研修内容・方法となるよう、見直しを進めることとしております。

香中研設立の精神は、戦後何もない中でより質の高い教育を目指し、同好の志を持つ教員が自主的に集まり勉強会を始め、その輪を広げていったものです。まさしく自分たちの力で切り開いてきたものです。今こそ、私たちは原点に立ち返り「すべての子どもたちの健やかな成長」のため取組を進めていく必要があると思います。

大量退職による教育力の低下は心配ではありますが、若年教員が増える中で新たに活力のあふれる研究組織となることも可能です。子どもたちのために教職員が力を合わせ、香中研がさらに充実した研究組織となることを期待しています。

あ い さ つ

— 香中研への期待 —

香 川 県 中 学 校 長 会
会 長 津 山 勝 義

本研究紀要も58号となり、人間に例えれば還暦に近づいています。この間、多くの先輩諸氏が各部会において創意工夫した教育実践を積み重ねられ、年々新たに会員になられた若い教員も加わりながら、香川県の中学校教員として生徒の成長をより促せる教育活動ができる教員になろうと努めてきました。

それは新陳代謝を繰り返しながら成長する生き物と同じです。一つ一つの細胞にあたる教員が、先輩の培った崇高な理想や貴重な技術を引き継ぎ、同時に、年々変貌する社会や生徒の実態に応じて新しい教育を構築していく、その平成29年度の足跡が本研究紀要です。執筆に当たられた皆様はもちろんのこと、研究同人として参加されました全ての会員の皆様の努力に敬意を表しますとともに、香川県の中学校教育に貢献されました功績に心より感謝申し上げます。

さて、今年度は、社会や生徒を取り巻く環境の大きな変化に対応した平成33年度から完全実施される新学習指導要領が告示され、節目となる1年間となりました。

ご案内のとおり、その中核となる理念は、新しい時代に必要となる資質・能力を育成するために、「何ができるようになるか」を明確にし、学校全体としてカリキュラム・マネジメントを確立する中で、これまでの教育実践の蓄積に基づきながら「主体的・対話的で深い学び」を実践することにあります。

来年度から移行期間に入りますが、既に実践研究に取り組まれた部会も多数あります。これまでの教育実践と指導方法が重なるところが多くあることから、従来の指導方法を止めるのではなく、従来の指導方法に何を付加していくべきかを明確にすべきと考えます。また、カリキュラム・マネジメントを行う上では、「社会に開かれた教育課程」という理念を取り入れなが

ら地域と協力しつつ具現化すべきと考えます。

こうした国の動向とは別に、目の前の生徒たちの様子を見つめていますと、何よりも個人差の拡大ということが気がかりです。体格差から栄養摂取量の格差があることが分かります。行儀作法の差から、保護者のかかわりの質・量の大きな差を感じます。人間不信の生徒は、親子関係、夫婦関係の不和が原因のようにも見えます。覇気のない生徒はゲーム依存が疑われます。先生とだけしか話ができない生徒も、何か家庭環境に特徴が見られるような気がします。総じて、指導する教師が全く体験したことがなく、想像し難い家庭生活を送ってきたと思われる生徒が、各学級に数名ずつ以上存在しているのが現状ではないでしょうか。

こうした多様な生徒やその家庭教育の中心となる保護者を理解し、その実態に応じて配慮した対応を行うことが求められている現在の中学校は、校内暴力の時代とは別の問題を抱えた新時代を迎えているように感じます。教師にとって未知の存在に見える生徒は、生徒の間でも未知の存在であり、コミュニケーションの機会をより多く持たせる必要があります。また、中学校での教育活動の中で未来志向とプラス思考をさせながら違いをけっして卑下させず、より見方・考え方を広げさせる必要があります。

新学習指導要領と目の前の生徒たちから求められているもの、この二つは別物ではなく、同じものであるように思われます。

香中研活動として多様な経験年数や勤務校の先生方が、熱心に議論する中で授業研究や実践を深められ、今後の本県中学校教育の発展と将来を担う生徒たちの成長のために、益々自ら積極的に研修に組み込まれ、新時代に対応する教育実践を実現されるようお願いし、あいさつといたします。

I 本年度の研究主題

1 研究主題（平成24年度より継続）

教職員一人一人の資質能力と意欲の向上を図り、学校の教育力を高める研究会活動

（キーワード） 継承・改善 研究体制 アクティブ・ラーニング
カリキュラム・マネジメント 資質能力

2 研究主題設定の理由

本会は昭和36年に発足し、県教育委員会や市町教育委員会の指導・助言、支援を受けながら、また連携を図りながら本県の中学校教育の振興に大きく寄与してきた。本会を今後さらに充実・発展させるためには、次の3点の課題を解決する必要がある。

- ① 現在、教員の高齢化と大量退職に伴い、学校現場において、ベテラン教員の専門的な知識やスキルの伝承が課題とされている。また、各支部・部会における実質的な担い手が学校においても主要な役職にあるなど高齢化が問題となっている。今後、スムーズな世代交代を図り、研究方法や組織運営のスキル等を次の時代を担っていく若手教職員に確実に伝えていく必要がある。（継承・改善）
- ② 研究会離れの傾向は今に始まったことではないが、学校現場の多忙化や、各支部の研究会において、研究授業者や実践発表者等の決定に苦勞することも珍しくない。各教職員が進んで実践発表を行うなどの姿勢は、引いてはそのことが学校の活性化にもつながるものである。今後、各学校において、教職員の研究会活動への積極的な参加を促すなど、研究会の役割と意義の自覚が求められる。各支部・部会における研究活動の成果や課題を教職員自らの実践としてさらに反映されるとともに、今後は、各学校において成果や課題を共有し合う場を設定するなど、香中研の研究活動を学校の教育活動に生かす研究体制の更なる充実を図る必要がある。（研究体制）
- ③ 「授業が変われば、生徒が変わる」と言われるように、時代が変化しても授業力の向上は必要不可欠である。香中研として、授業力の研究を中心に教師の資質能力に着目した研究を行う必要がある。県教育センターの平成28年度全国学力・学習状況調査の結果分析によれば、教科に関する調査の平均正答率で、全ての調査区分で全国平均を上回った。これは、各学校が進めてきたこれまでの授業改善等による学力定着の成果である。また、課題となっていた無解答率についても改善が見られ、ここにも授業改善への取組の成果がうかがえる。
また、「アクティブ・ラーニング」の視点は、学校における質の高い学びを実現し、生徒たちが学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたってアクティブに学び続けるようにするためのものである。児童生徒質問紙調査で、「学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると

思いますか」の質問について、肯定的に回答した児童生徒の割合は、全国平均を上回っている。アクティブ・ラーニングを推進する学校が増加してきたことが、この好結果の一つの要因と考える。これからも各学校において、実態に合わせた主体的・対話的で深い学びの推進を通して、教師の授業力の向上に取り組みたい。（アクティブ・ラーニング）

生徒は、学校教育活動全体の取組の中で育つ。教科等・領域双方の強みやよさを生かしつつ、教育課程総体の力を発揮させて資質・能力を育成するためには、すべての教職員が校内研修や多様な研修の場を通じて理解を深めなければならない。学校質問紙調査をみると「横断的な視点」「PDCAサイクルの確立」「人的・物的資源等の活用」に関する質問項目の肯定的な回答は、全国を下回っており、今後の改善に向けた取組が求められる。（カリキュラム・マネジメント）

こうした現状と課題から、学習指導要領の完全実施となる平成24年度からの香中研の研究主題を、教職員の資質能力の向上や学校の教育力の向上とするなど、これまでの生徒像を改め、個々の教師像や学校像とすることで、香中研の自主研究団体としての性格をより明確に打ち出し、加入する全教職員、全中学校に研究会の一員であることや役割の自覚を促し、研究会活動の活性化を図りたい。（資質能力）

3 今後の研究推進について

本会が目的とするところは、生徒に生きる力を育てるために一人一人の教職員が、各支部・部会での研修等の活動を行うことで、個として高めた意欲や知識・技能が学校現場に反映され、学校が組織として機能する力として高められることである。したがって、本研究主題は、研究会活動とそれを生かす学校教育の在り方も視野に入れたものである。そこで、次の点に重点を置きながら、各支部・部会で計画的に実践していくこととする。

- ・研究の継続性を図るため、本研究主題を平成29年度まで継続する。
- ・これまで各支部・部会で研究実践してきた指導法の研究を継続、発展させながら、ベテラン教職員から若手教職員への指導法等の継承を図る。
- ・継承の視点で見直した各支部・部会の研究体制の基、授業に関する実践的研究等を組織的に行い、改善の視点から研究の成果と課題を明確にする。

Ⅱ 本年度の研究発表と来年度の研究発表予定

■平成29年度 香川県中学校教育研究会研究大会・研修会一覧

番号	部会名	期 日	郡市	会 場 校	規模	大 会 主 題
1	国 語	11月9日(木)	坂・綾	坂出市立白峰中学校	県	生きてはたらく確かな言葉の力を育む国語教育の創造 —主体的・対話的な学びを通して—
2	社 会	11月9日(木)		香川大学教育学部附属高松中学校	研修	未来社会につなぐ社会認識の構築 —授業力の継承、そして創造—
3	数 学	11月9日(木)	坂・綾	綾川町立綾南中学校	県	活用する力をはぐくむ数学教育の展開 —説明し伝え合う活動の活性化を通して数学的な見方や考え方をはぐくむ授業づくり—
4	理 科	11月9日(木)	丸・仲	丸亀市立綾歌中学校 丸亀市立飯山中学校	県	ともに自然にかかわり、探究し、科学的な資質や能力を育む理科教育 —探究の過程における主体的・対話的な学びを通して—
5	音 楽	10月27日(金)	三・観	三豊市立豊中中学校 観音寺市立中部中学校	中四	つなげよう 音と心と ときめく瞬間
6	美 術	11月9日(木)		高松市立香東中学校	研修	生活を豊かにする美術の学び —生徒の意欲を引き出す美術の授業づくりをめざして—
7	保健体育	11月9日(木)	小・さ・東	さぬき市立志度中学校	県	生涯にわたって運動に親しむ保健体育学習のあり方 —なかまとの関わりを通して学び合い、高め合う生徒を目指して—
8	技術・家庭	10月30日(月) 11月2日(木) 11月9日(木) 11月16日(木)		三木町立三木中学校 高松市立高松第一中学校 高松市立勝賀中学校 高松市立太田中学校	研修	社会の変化に対応し、よりよい生活を創造する生徒の育成 —学びの質を高める問題解決的な学習のあり方—
9	英 語	11月9日(木)	丸・仲	普通寺市立西中学校 普通寺市立東中学校	県	「主体的な学びにつながる中学校英語教育のあり方」 —グローバル化に対応した「英語の授業」をめざして—
10	養 護	11月9日(木)	三・観	丸亀市綾歌総合文化会館 アイレックス	県	養護教諭の専門性の深化をめざして中学校の特性をふまえた養護実践の構築

■平成30年度 香川県中学校教育研究会研究大会一覧

番号	部会名	期 日 統一日	郡市	会 場 校	規模	大 会 主 題
1	美 術	10月25日(木)	高松	高松市立香東中学校	四国	大会主題「感じる つくる つながる」 中学校主題「生活を豊かにする美術の学び～生徒の意欲を引き出す美術の授業づくりをめざして～」
2	技術・家庭	11月1日(木) 11月2日(金)	高松	高松テルサ 三木町立三木中学校 高松市立勝賀中学校 高松市立太田中学校 高松市立高松第一中学校	中四	社会の変化に対応し、よりよい生活を創造する技術・家庭科教育 ～学びの質を高める問題解決的な学習のあり方～
3	特別活動	10月4日(木)	小・さ・東	さぬき市立さぬき南中学校	県	なかまと協働し、主体的に行動できる生徒の育成 ～話し合い活動を軸として～
4	生徒指導	10月30日(火)	坂・綾	坂出市立東部中学校	県	自己指導能力を育てる生徒指導のあり方 ～対話による共感的人間関係に支えられた集団作りをめざして～
5	メディア教育	10月25日(木)	丸・仲	丸亀市立綾歌中学校	四国	大会主題「社会と連携・協働した未来の創り手を育成する放送・メディア教育を推進しよう」 中学校主題「学びを人生や社会に生かそうとする生徒の育成—主体的・対話的で深い学びを支えるメディア教育の推進—」
6	人 権・ 同和教育	11月8日(木)	三・観	三豊市立和光中学校	県	お互いの生命や人権を尊重し、差別や偏見の不合理さを見抜いて、差別を解消する意欲と実践力を持った生徒の育成

Ⅲ 研究報告

1 研究大会を実施した部会

つながる瞬間

～ 自ら学び、感動を共有する音楽学習をめざして ～

音楽教育研究部会

1 研究主題について

「つながる瞬間」とは、「生徒が音楽の美しさと出会う瞬間」、「生徒が他者との交流を通して音楽のよさを再発見する瞬間」のことをさす。この「つながる瞬間」の実現をめざした授業によって、生徒一人一人の音楽に対する価値意識が構築され、さらに、そこで得られた感動をなかと共有することにより、生涯にわたって音楽文化に親しむ態度が育つと考える。

授業において「主体的・対話的で深い学び」を追究し、「つながる瞬間」を実現することによって、中学校音楽科の目標である「音楽文化についての理解を深め、豊かな情操を養う」ことに迫っていけるのではないかと考えた。

2 研究の概要

(1) 研究推進の方向

「つながる瞬間」を実現するために、中央教育審議会（平成28年12月）で示された「主体的・対話的で深い学び」に着目した。中でも「子供たちが『どのように学ぶか』という学びの質を重視した改善を図っていくこと」という部分に着目し、学びの質を高めるための授業改善の工夫として以下の3つの視点で研究を進めることにした。

- ① 生徒自らが音楽のよさや美しさを探究できるような学習課題の工夫
- ② 感動を共有するための学習活動の在り方
- ③ 一人一人の学びの過程や成果を把握する評価の在り方

(2) 夏季研修会

今回の夏季研修会では、講師に東京音楽大学専任講師 和田 崇先生をお迎えし、「新学習指導要領の改定のポイント」と題して、新学習指導要領の内容についてわかりやすく

解説していただき、また、実際にどのような授業になっていくのかを模擬授業を通して教えていただいた。また、音楽科の目標が、現行と新学習指導要領においてどのような違いがあるのかを分かりやすく構造化して教えていただいた。

(3) 若年研修

本年度の若年研修は、和楽器の授業参観をすることができたり、また各自の授業における悩み等を解消できたりと日々の実践につながる研修となった。

(4) 研究委託

各郡市の代表の研究部員から「主体的・対話的で深い学び」の実践を各郡市の研究部員が持ち寄り、全員で検討した。

(5) 香中研音楽部会研究発表会（第48回中国・四国音楽教育研究大会 香川大会）

① 公開授業

〔表現領域（創作）〕

○場 所 観音寺市立中部中学校

○授業者 観音寺市立中部中学校
政本 浩一郎先生

○題材名 主旋律と調和する「もう一つの旋律」をつくろう

○目 標

・旋律と旋律がからみ合う美しさや音楽的な広がりを感じ取りながら、主旋律と調和する「もう一つの旋律」づくりに意欲的に取り組む。

・主旋律に対して「もう一つの旋律」がどのようにかかわれば調和するか、示された旋律の特徴や友だちの意見などを参考にしながら、意図をもって旋律をつくる。

○授業内容

「主旋律の特徴を感じ取りながら、旋律

の動きやリズムを工夫して、アニーへの思いを表す『もう一つの旋律』をつくること
ができる。」ことを本時の目標とし、本時の学習課題「アニーへの思いを表す旋律とは」のもと、創作活動を行った。自分の作品を再考するにあたり、教材曲に込められた思いや作曲された背景を知った上で、旋律と調和させる手立てを見つけさせた。調和させる手立てを見つけさせる際には、音の動きやリズムを比較しやすい「もう一つの旋律」の例を提示した。例の中から気に入った旋律をもとに「アニーへの思いを表す旋律とは」について考え、自分の作品の手直しをする部分を決めさせた。また、手直しをする際には自分の意図をワークシートに書かせてから作品を手直しさせた。



〔鑑賞領域〕

- 場 所 三豊市立豊中中学校
- 授業者 三豊市立豊中中学校
高橋 敦子先生
- 題材名 3つの祈りの音楽の特徴から、
音楽の多様性を理解して鑑賞しよう
- 目 標
 - ・それぞれの音楽の特徴や多様性に興味をもち、鑑賞活動に主体的に取り組む。
 - ・それぞれの音楽を特徴づけている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質を感受しながら、音楽を形づくっている要素と曲想とのかかわりを理解する。
 - ・音楽の特徴とそれぞれの曲の背景を関連づけることによって、音楽の多様性を理解して鑑賞する。
- 授業内容

「音楽の特徴とその背景を関連づけることによって、音楽の多様性を理解して鑑賞することができる。」ことを本時の目標とし、本時の学習課題「人はなぜ歌うのだろうか～歌う人の思いはどのように表れているの

か～」のもと、3曲の鑑賞を行った。曲の背景となる歴史や文化を知った上で、歌ってきた人々の思いが音楽の中にどのような形で表れているか考えさせた。鑑賞する際には自分の考えの根拠となった部分を探させることで音楽に集中して注意深く聴くことができるようにした。また、主体的に活動できるように、前時に3曲の中で一番好きであると答えた曲ごとにグループ分けをして、その曲を中心に組み合わせた。そして、これまでの学習の振り返りをもとに、題材をつらぬく課題「人はなぜ歌うのだろうか」について自分なりの意見をまとめさせた。



② 全体会

○全体講評

文部科学省初等中等教育局教育課程課
教科調査官 津田 正之先生

○記念講演

サクソフォン奏者 國末 貞仁氏

○研究演奏（中学校）

混声合唱 三木町立三木中学校

○合同フィナーレ

3 成果と課題

大会にむけ、継続的に研究を進め、また、平成33年度に新学習指導要領の全面実施をひかえ、新学習指導要領の目指している学びを意識しながら研究を進めてきた。その中で以下の3点が成果としてあげられる。

- ① 主体的な学びを促すための魅力的な学習課題の設定が大きな鍵となること
 - ② 話し合いにどのように音楽を介在させるかを明確に指示する大切さ
 - ③ 学びの過程や考えの変容を把握することができるワークシートの工夫
- 今後、「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」を明確にして授業を実践し、「主体的・対話的で深い学び」を実現できるよう研究を続けていく。

生きてはたらく確かな言葉の力を育む国語教育の創造

— 主体的・対話的な学びを通して —

国語教育研究部会

1 研究主題について

第30回香川県中学校教育研究会国語部会研究大会を開催するにあたり、次期学習指導要領の方向性を視野におき、全県下で統一したテーマのもと、各郡市と連携して研究を進めていくこととし、本主題を設定した。

2 研究の概要

本年度は、主に夏季研修会で講演会、県大会事前発表、ワークショップを開催した。授業づくりのワークショップ5講座を行い、今後の授業のための良い研修の機会となった。県大会では、全体提案、公開授業、領域別分科会を行い、県下国語教員が研鑽を深める場となった。

(1) 研究委員会

坂出・綾歌支部を核に、研究の方向性と具体的な授業について検討を重ねた。

(2) 夏季研修会

① 講演

佐藤佐敏先生（福島大学人間発達文化学類教授）に「主体的・対話的で深い学びのある国語科授業づくり一次期学習指導要領を見据えて—」の演題で講演をいただいた。

② 各郡市発表

坂出・綾歌支部の県大会事前研究発表を行った。

③ ワークショップ

ア テーマ「ビジュアルツールで思考力を育てる」

講師 山本茂喜先生（香川大学教授）

イ テーマ「ジグソー学習入門」

講師 佐藤明宏先生（香川大学教授）

ウ テーマ「新学習指導要領に基づく授業改善」

講師 土岐浩司先生（香川県教育委員会事務局義務教育課主任指導主事）

エ テーマ「言葉の価値を実感する国語科授業づくり」

講師 川田英之先生（綾川町立綾上中学校指導教諭）

オ テーマ「香川大学教育学部附属坂出中学校の書写授業（全員参加型カリキュラムの実践演習⑤）」

講師 前田秀雄先生（岡山大学講師）



【講演及びワークショップでの研修の様子】

(3) 委託研究部会

県教委研究委託を受け、「主体的・対話的で深い学び」の視点から、子供に身に付けさせたい力を踏まえた授業作りについて、実践資料を持ち寄り、検討を重ね、まとめた。

(4) 若年研究部会

2～4 経教員を対象に、附属高松中、坂出市立白峰中での授業研究会等、4 回の研修を行った。また、郡市の指導の先生との徒弟関係組織を整備し、研修の機会をもった。

(5) 第30回香川県中学校教育研究会国語部会研究大会

平成29年11月9日（木）坂出市立白峰中学校において上記の大会を開催した。県内国語科教員等、200名が参加し、全体提案、公開授業、領域別分科会を行った。

① 全体提案

「現代の教育課題」「各学力調査の結果」「これまでの研究の流れと子どもの実態」等をもとに、次期学習指導要領が提唱する「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善を踏まえ、「生きてはたらく確かな言葉の力を育む国語教育の創造～主体的・対話的な学びを通して～」の主題を設定し、国語科学習指導の工夫として、大きく以下の三点について提案した。

ア 対話的な学びの過程を取り入れた授業作りの工夫

対話的な学習を通して、協働的に問題解決を進めていく中で、自分の考えを深めさせる。

イ 学習の「見通し」と「振り返り」による主体的な学びの実現

学習の始めに、単元構成や学習内容・手順等を示し、学習の見通しをもたせる。各授業や単元の終わりに自分の取り組みや考えの変容等の振り返りを行い、それをポートフォリオ式に積み上げることで、自己の学びを自覚できるように促す。

ウ 「つけたい力」を明確にした単元構成と指導計画

「つけたい力一覧表」を作成し、単元構成、指導方法、評価のあり方を工夫する。

② 公開授業、部会提案・討議

「具体例を挙げて伝えよう」（話すこと・聞くこと）、「観察・分析して論じよう」（書くこと）、「『正しい』言葉は信じられるか」（読むこと）、の3部会の公開授業を行った。授業の最初に学習の見通しをもち、「対話的な学び」の過程を経て、最後に自らの学習内容を振り返ることを通して、個々の学びを深めていく生徒たちの姿が見られた。領域別分科会提案・討議においても、提案内容を軸とした活発な意見交換がなされた。



【全体会の様子】



【公開授業、領域別分科会・討議の様子】

3 成果と課題

「主体的・対話的で深い学び」を核として、生徒が意欲をもって学習に取り組み、言葉の力を身に付けるための国語科学習指導をどう行っていくかについて、研修が深められた。とりわけ夏季研修会と県研究大会を通して、今後の授業の方向性を共有できたのではないかと考える。

次期学習指導要領で目指す資質・能力を育成していくためには、「主体的・対話的で深い学び」の視点から、言語活動を充実させ、学びの質の向上を図らなければならない。今後も本主題の方向性を追究し、質の高い研修と研究を進め、県全体の授業改善と指導力の向上を図っていきたい。

活用する力をはぐくむ数学教育の展開

～ 説明し伝え合う活動の活性化を通して数学的な見方や考え方を高める授業づくり ～

数学教育研究部会

1 研究主題について

数学部会では、学んだことを活用できる生徒の育成を目標として研究主題を設定した。この活用する力をはぐくむためには、個として学ぶだけでなく、話し合い伝え合い活動を通して、知識・技能の定着を図るだけでなく、数学の本質を理解することで、活用する力をはぐくむことができる考える。また、説明し伝え合う活動を通して、一層合理的、論理的に考えを進められるようになったり、より簡潔で、明瞭な表現へと質的に高められたりされることで見方や考え方の高まりにつながると考え、サブテーマを「説明し伝え合う活動の活性化を通して数学的な見方や考え方を高める授業づくり」とした。支部ごとに昨年度の研究の成果と課題をふまえた研究テーマを設定し、授業改善を中心とした研究に取り組んだ。

2 研究の概要及び大会内容

(1) 各支部が設定した研究テーマ

[高松] 話し合いの場を設けた授業の工夫

[丸亀] ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくり

[坂出・綾歌] 説明し伝え合う活動の活性化を通して数学的な見方や考え方を高める授業づくり

[小豆] 身の回りの問題解決を取り入れた授業実践について

[さぬき・東かがわ] 基礎的・基本的な知識・技能の定着をめざして

[仲多度・善通寺] 活用する力をはぐくむ数学の授業づくり

[三豊・観音寺] 数学的活動を取り入れた指導の在り方

(2) 中高連絡会

香川県立善通寺第一高等学校において、高等学校教員による公開授業の参観を実施した。また、次期学習指導要領の改定を見据えた情報交換を行った。高校教員による公立高校学力検査及び高校での数学学力テストの結

果の考察からは、中学校数学の課題が明らかになるとともに、中高の連携を密にしていく必要性を確認できた。

(3) 夏季研修会

中国・四国大会の中学校部会で発表予定の小豆支部、高松支部による研究発表を行い、県教委事務局義務教育課の清水一郎先生に指導・助言をいただいた。次に、水谷尚人先生に「新学習指導要領における数学教育の方向性」の演題で講演をいただいた。新学習指導要領を読み解き、改訂前と改訂後について具体例を挙げていただきながら、示唆に富んだ内容であった。

(4) 若年研修会

三豊市立三野津中学校と香川大学教育学部附属坂出中学校において、授業参観と討議、講話や教材研究を実施した。若年教員の指導力向上につながる機会となり、教員間の学びあいの重要性を確認できた。

(5) 研究大会

① 研究仮説

解決した学習課題をさらに深化・発展させた学習課題を設定したり、小グループで学べる学習形態を取り入れたりとすることで、説明し伝え合う活動を活性化し、学習内容の習得、活用が一層促進されるであろう。そして、学習の振り返りを含めた一連の学習活動全体を通して、数学的な見方や考え方を高めることができるであろう。

② 研究構想図 (坂出・綾歌支部)



③ 研究内容

学習課題の設定では、習得と活用の関連を図り、より深い学びを実現するために、1時間、あるいは1つの主題に基づく一連の学習活動の中で、「共有課題」（全員に身に付けさせたい基礎・基本にかかわる課題）と「ジャンプ課題」（共有課題をより一般化させたり適用範囲を広げたりした課題）の2段階の学習課題を設定した。また、学習課題やねらいに応じて、グループ活動を行い、その際には、説明し伝え合う活動を円滑に行えるよう多様なコミュニケーションツールを活用した。また、授業の終末段階では、「新たに身に付けたこと」や「見方や考え方の変容」等に視点をあてた振り返りを行った。

④ 授業の実際（綾南中）

■3年 関数 $y=ax^2$ 「図形の移動にともなって変わる面積」



図1 自分で考える様子

生徒が操作できる図形を実際に用意し、課題に取り組めるようにした。また、図形を動かすことによって、変化する数量と変化しない数量について考えることで、課題解決の見当をつけさせることができた。

■2年 式の計算「どちらが長い？」



図2 考えを共有する様子

個人追究の場で自分の考えを明確化することができていた。その後のグループ活動に個人追究の場面が活かされておいた。理解が不十分な点に関しては、考えを共有したり、学びあったりすることで個人追究では不十分だったところも補完されていった。振り返りの時間を保障することで生徒の中から新たな考えや疑問点が生み出され、学び続ける姿勢を養うこともできた。

■1年 比例と反比例「ランドルト環の秘密」



図3 考えを伝え合い、まとめている様子

共有課題を活かしながら、ジャンプ課題に取り組めるようにした。生徒が自分の考えを説明し伝え合う中で、ランドルト環の中に潜む関数を捉えていくことができた。また、全体交流を通して、表や式など様々な表現方法で関係を捉えられ、関数関係の考え方がさらに深まったことを実感させることができた。

3 成果と課題

坂出・綾歌支部では平成28年度より数学アンケートを実施しており、その結果や授業の様子から、説明し伝え合う活動を繰り返し行うことが、数学の思考力・判断力・表現力等を高め、数学を活用していこうとする態度の育成に効果的であることが分かってきた。また、継続的に振り返りの場を保障することで、数学的な見方や考え方の気付きや高まりが感じられた。数学がすきだと回答する生徒がわずかに増加しているが、依然否定的な回答をしている生徒が30%を超えており、関心・意欲の面での二極化が解消されていない。そういった生徒らが数学の魅力に気付き、活用しようとする態度を身につけられるよう今後も研究を進めていきたい。

進んで自然とかかわり、探究し、学びを実感できる理科教育

— ともに自然にかかわり、探究し、科学的な資質や能力を育む理科教育 —

理科教育研究部会

1 研究主題について

現在の生徒の実態として、理科を学習する意欲は高いが、それが大切であるという認識は低いことがあげられる。環境の変化から、自然とふれあう体験が乏しくなり、理科で学んだことが日常生活に関係していることや社会を豊かにし安全性の向上に役立っていること、多くの職業と関係していることなどを実感できない実態がある。そこで、本研究では生涯にわたって科学に関する関心を持続させる取組が必要であると考え、平成24年度より上記の研究主題を設定し、継続的に研究を推進している。

現行の学習指導要領では、科学的に探究する能力の基礎と態度、科学的な思考力・表現力(分析・解釈)の育成が目標としている。これらを踏襲して、育成すべき科学的な資質や能力を明確に位置づけた研究推進が望まれている。また、次期学習指導要領の改訂では、育成すべき資質・能力を踏まえた教育目標や内容、学習評価の在り方を検討しており、国立教育政策研究所では、「21世紀型能力」を提唱している。

さらに、全国学力・学習状況調査では、生徒の学習意欲とともに、「実験の計画や考察などを検討し改善したことを、科学的な根拠を基に説明すること」「実生活のある場面において、理科に関する基礎的・基本的な知識や技能を活用すること」に依然として課題があることが明らかになった。また、本県の生徒の学習状況に関して「友達の前で発表すること」「友達にうまく伝えること」「友達の意見を最後まで聞くこと」の項目は、全国平均を下回った。つまり、課題に対して根拠をもって予想を説明したり、観察、実験で得られた結果を分析・解釈し、表現したりする指導の充実が求められているといえる。

このような課題意識のもと、全国中学校理科研究会共通の研究主題として継続的な研究を推進していることを念頭に、本研究大会の副主題を設定した。

2 研究の概要

◆研究大会

本年度は、研究主題や副主題を踏まえて、研究の推進をはかるために、まず、研究仮説を立て研究の課題を焦点化して、より具体的な実践研究ができるように、「学習指導」「観察実験」「環境教育」「学習評価」の4領域に分けて以下のように各領域の研究テーマや研究の方向性を設定し、研究を進めてきた。

《研究仮説》

科学的な探究活動の中で言語活動を充実させることは、自然の事物・現象に生徒自らが進んでかかわるようになるだけでなく、他者との交流を通して生徒相互の知的好奇心が高揚され、科学的な思考力や表現力を高められるのではないか。

【学習指導領域】

《分科会テーマ》

「言語活動を充実させ、生徒が主体的に課題解決を図る学習指導」

《研究の方向性》

- 対話的な学びの意欲が高まる課題設定の工夫
- 自然・自己・他者との対話を意識しながら結果を分析できる学習形態の工夫

【観察・実験領域】

《分科会テーマ》

「自然現象から主体的・対話的に学び、思考力・表現力を育てる観察・実験」

《研究の方向性》

- 理科の見方・考え方を働かせ、観察・実験を行い、問題解決を図る場の設定
・実験結果を分析・解釈する場の工夫
・実験を計画する場（構想）の工夫
- 対話の場の充実

【環境教育領域】

《分科会テーマ》

「主体的・対話的に学びとる力を育てる環境教育」

《研究の方向性》

- 身近な環境を分析し、環境問題を多面的

に捉えることができる教材の開発

- 環境に対する深い学びにつながる対話的な学びのあり方

【学習評価領域】

《分科会テーマ》

「自己変容を実感し、主体的・持続的な学びを支えるための学習評価」

《研究の方向性》

- 学習への貢献度や満足度、概念の変容や深まりを把握するための自己評価の工夫
- 主体的な学びが持続し、生徒の思考が深まる他者評価や相互評価のあり方
- 生徒のさらなる学習への内発的動機付けができる評価のあり方

◆夏季研修会

講演『これから求められる理科教育を考える
—学習指導要領改訂を受けて—』

講師 文部科学省 教育課程課 教科調査官
藤枝秀樹 先生

午前中の講演では、教育課程全体や各教科等の学びを通じて「何ができるようになるのか」という観点から、育成すべき資質・能力を整理し、生徒たちの具体的な学びの姿を考えながら授業を構成する必要があることなど、次期学習指導要領の改訂のねらいとポイントについて具体的例を示しながら説明していただいた。



午後からは、香川県中学校教育研究会理科部会研究大会丸亀大会に向けての全体提案のあと、各郡市の研究分科会が4領域に分かれて行われた。内容と発表者は以下の通りである。

学習指導

「言語活動を充実させ、生徒が主体的に課題解決を図る学習指導」

善通寺市立東中学校 齋藤隆弘 先生
「言語活動を充実させ、生徒が主体的に課題解決を図る学習指導 ～学習効果を高める学習形態の工夫～」

さぬき市立長尾中学校 久武 滋 先生

観察・実験

「学びの共同体を生かすことができる観察・実験のあり方」

土庄町立豊島中学校 児島洋一朗 先生

「自然から主体的に学びとる力を育てる観察・実験」

高松市立勝賀中学校 梅谷知数 先生

環境教育

「自然に関心をもち、主体的に自然との調和をはかろうとする態度を育てる環境教育」

高松市立木太中学校 岩瀬景亮 先生

「身近な自然現象のデータベース化による授業活用」

三豊市観音寺市学校組合立三豊中学校

藤村さざり 先生

観音寺市立観音寺中学校 新延尚子 先生

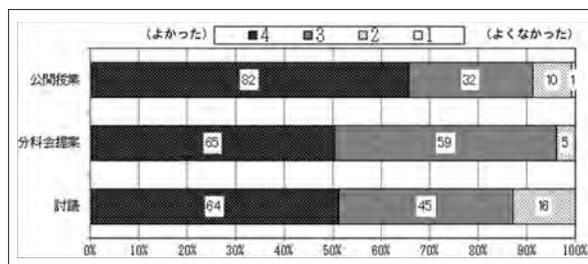
学習評価

「自然に進んでかかわり、探究し、学びを実感できる理科教育 ～授業内に行う効果的な評価のあり方～」

坂出市立白峰中学校 宮本義夫 先生

3 成果と課題

丸亀大会では、主体的・対話的な学びをめざして公開授業や領域提案がされた。下表は、大会後のアンケート結果をまとめたものである。



平成31年度の坂出・綾歌大会（中四国大会）では、今大会で提案された「どのように学ぶのか」という提案をいかし、「何を学ぶのか」「何ができるようになったのか」といった事を視野に入れ、さらに研究を進めていきたい。

生涯にわたって運動に親しむ保健体育学習のあり方

保健体育教育研究部会

1 研究主題について

現在の保健体育科の現状・課題に対応していくため次の2つの視点を持ち、各地区でサブテーマを設定し、生涯にわたって運動に親しむ保健体育学習のあり方を探る。

- ① 次期学習指導要領を見据えた学習指導及び評価の在り方の追求
- ② 教科学習指導の継承と創造

2 研究の概要及び大会内容

(1) 夏季研修会

- ① 日程 7月31日(月)
- ② 場所 高松市立玉藻中学校体育館
- ③ 講師 吉永 武史 氏
(早稲田大学スポーツ科学学術院准教授)
- ④ 研修テーマ

「主体的・対話的で深い学びの実現を目指して一球技領域に注目して一」

次期学習指導要領が示され、私たち保健体育科教員はこれからの教科指導のあり方を考え直さなければいけない。日々の授業を改善する視点として「主体的・対話的で深い学び」が示されているが、具体的にそれはどのようなことを示すのか、実現するためにはどのようなことを心がけなければいけないのか。吉永先生(早稲田大スポーツ科学学術院)から、現行の学習指導要領で重視されていること、そして今回の改訂の趣旨やこれからの授業の在り方についてお話をいただいた。「よい体育の授業」とはどのようなものなのか。それは学習の対象である生徒が、「今日の授業面白かった。」「今日、～ができるようになった。」「～が分かった。」等の学習成果を得られるような授業である。それは、運動の得意、不得意に関わらず、すべての生徒を対象としていることを今一度再確認する必要があると述べられた。そのために、どのよ

うな目標を設定し、教材をどのように工夫するのが大切であると述べられた。

講話の後は、球技「ゴール型」「ネット型」の実践を紹介していただき、参加した教師が生徒役となり、実際に体を動かしながら研修を受けた。生徒役になって体を動かすことで、予想される生徒のつまずきや課題、その運動の本質的な面白さを実際に味わうことができた。さらに、学習を深めるためのワークシートも実際に使用し、授業での発問やワークシートの活かし方等も学ぶことができた。



図1 夏季研修会の様子

(2) 研究大会

【大会主題】

生涯にわたって運動に親しむ保健体育学習のあり方～なかまとの関わりを通して学び合い高め合う生徒を目指して～

- ① 日程 11月9日(木)
- ② 場所 さぬき市立志度中学校
- ③ 公開授業
 - ア 単元 球技「ネット型(バレーボール)」
 - イ 授業者 夏田 英司
(さぬき市立志度中学校)
 - ウ 単元の目標
 - ルールやマナーを守り、互いの健康・安全に留意し、チームの仲間と伝え合う活動をしながら、対戦ゲームや課題練習に積極的に取り組むことができる。
 - 個人やチームの特性を生かして、作戦を立てたり助言し合ったりして、練習を工夫することができる。
 - 空いた場所をめぐる攻防を展開するた

めに、役割に応じたボール操作や、ボールを持たないときの動きができる。

- ネット型の特性やバレーボールの成り立ち、技術の名称や行い方を理解することができる。

エ 指導上の留意点

本単元では、ゲームを中心とした単元構成を行い、その中で成功や失敗について振り返る場面を適宜つくり、チームで話し合ったり、ゲームを分析したりしながら学習を進めていく。単元全体を通してボールを持たないときの動きを考えさせ、ボールが移動しているときの味方と相手の位置を瞬時に捉えることの重要性や、それぞれの場面でどのようなパスを選択することが有効なのか、その判断の重要性を気付かせる。また、「より多く得点を取るために、ボールを持たないときにどのように動けばよいのか」というどこまでも追求できる問い（単元を貫く問い）を設定し、相手の打球に備えた守備姿勢や空いている場所へのカバーの動きから、攻撃に移るためのボールを持たないときの動きに着目させて単元を展開していく。そして、相手コートの空いている場所をねらうためには、チーム全体での思考の共有が必要であることにも気付かせる

オ 本時の指導について

- ・自分たちのチームの課題や個人の課題に気付くことができるようにするため、タブレットでゲーム中の動きを撮影し、チームミーティング時に振り返ることができるようにした。
- ・各チームの約束事や課題をホワイトボードに記入できるようにし、ゲームで意識させるとともに、話し合う視点とした。
- ・生徒の課題意識をボールを持たない動きに焦点化するために、次のプレーに備えた動きや姿勢がうまくできている生徒やチームを意図的に取り上げた。
- ・教師は「なぜ?」「どうして?」と意識

的に問いかけ、生徒の考えを広げ、深めることができるようにした。

④ 全体提案

ア 発表者 塚本 早紀

(東かがわ市立大川中学校)

イ 内容

「なかまとの関わりを通して学び合い高め合う生徒を目指して」

⑤ 分科会提案

<小豆支部>

ア 発表者 塩見 夏貴

(土庄町立土庄中学校)

イ 内容

「なかまと共に楽しく活動し、高め合う体育学習」

<丸亀支部>

ア 発表者 田ノ上 将志

(丸亀市立飯山中学校)

イ 内容

「主体的に学び、考える生徒の育成」

⑥ 指導・助言

香川県教育委員会事務局保健体育課

主任指導主事 茶園 徹 先生



図2 公開授業の様子



図3 全体会の様子

主体的に英語を学び続ける生徒の育成

— 言語活動のさらなる充実をめざして —

英語教育研究部会

1 研究主題について

グローバル化が進み、異なる文化との共存や国際協力の必要性がますます高まっている中で、英語教育に対する期待はこれまで以上に大きく、学校教育の中だけではなく、生涯にわたって主体的に英語を学び続ける生徒の育成が求められている。

そこで英語教育研究部会では「主体的に英語を学び続ける生徒の育成—言語活動のさらなる充実をめざして—」のテーマのもと、相手の立場や考え方を理解して、相互理解が深まるようなコミュニケーション能力の育成をめざし、言語活動の充実を図ってきた。

具体的には、①4技能を有機的に結びつけた言語活動の実践、②言語活動における教師のかかわり（授業を英語で行うことやALT・ICTの効果的な活用など）、③Performance Testの導入による評価方法の改善、以上3つの内容を柱として研究を進めた。

2 研究の概要

(1) 春季研究会

平成29年度香川県英語教育研究会春季研究大会が6月16日（金）に香川県立高松北中学校・高等学校で開催された。この春季大会は、公開授業・総会・講演を行う中で中高の連携について研究するという点で、他教科にはない独自性をもち、大きな成果を上げている。今年度は、中学校から40名を超える参加があり、中学校と高等学校の授業を見て、それぞれの校種の授業の在り方について考えることができた。

(2) 夏季研修会

平成29年度香川県中学校英語科教員夏季研修会が7月31日（月）に丸亀市綾歌総合文化会館アイレックスにおいて開催された。県内

英語科教員等約230名が参加し、講演やワークショップを通して研修を深めた。

① 講演

「小中連携と新たな外国語教育について」という演題で、香川県教育センター指導主事の清水由美先生にご講演をいただいた。県内の小中連携の実態や小学校英語の教科化を受けて、中学校での指導内容をどう工夫していくかなど、効果的な英語教育の推進について考える良い機会となった。

② 講演・ワークショップ

「生徒の学びに寄り添った授業改善のための工夫」という演題で宇都宮大学教育学部附属中学校の田村岳充先生にご講演をいただいた。教師と生徒のインタラクションの様子をVTRで見せていただいたり、CAN-DOリストの活用についてお話を下さったりと、大変勉強になる内容であった。また、午後からのワークショップでは、田村先生のご指導を受けつつ、グループでPerformance Testに関して意見交換を行うことができた。

(3) 若年研修会

2経～4経の若年教員の授業力向上に向けて、附属高松中、龍雲中、宇多津中において研究授業、討議、ワークショップ等を行った。若年教員から、授業や日常の悩みについて多くの質問をいただき、それについて他校の教員と交流しながら、研修を進めた。

(4) 香中研英語部会研究大会

平成29年度香川県中学校教育研究会英語部会研究大会が、11月9日（木）に善通寺市立西中学校・善通寺市立東中学校で開催された。県内中学校英語科教員に加え、小学校、高等学校からも多く参加していただき、当日は400名を超える参加があり、大変充実した研究大会となった。

研究授業は、「生徒の視点に立った授業づくり」を重視した内容で、生徒の「気付き」を授業の根幹に据えたものであった。

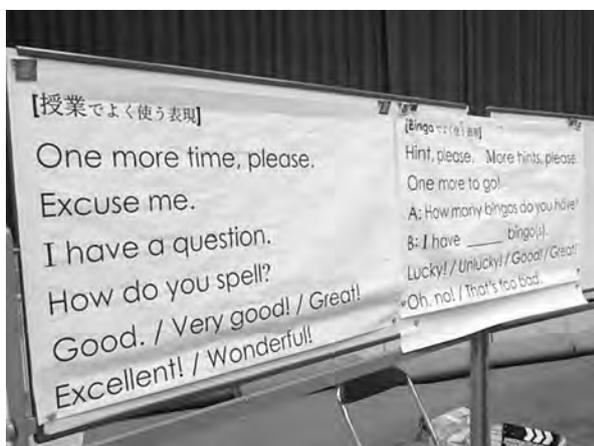
また、「学び」を生徒の興味関心や、生涯にわたって学び続けようとする態度につなげるための手立てを提案していただいた。

① 研究授業

【第1会場】 溝川 友紘（善東中）

渡辺 瑞穂（善東中）

テーマ：「英語で授業」その展開の工夫（可能な限り英語を用い、その展開方法や英語の使い方などについての授業実演を行った。）



【第2会場】 小野 説子（善西中）

Brenda Thomas

テーマ：CAN-DOリストの活用と授業改革（学習到達目標への過程の1コマとして、その位置づけが見える授業実演を行った。）

【第3会場】 佃 宙子（善西中）

テーマ：Performance Testの望ましいあり方（Performance Testの1つである英語面接テストについて研究を行い、それを基に今まで行った面接を振り返り、さらに次回の面接をより良いものにするための授業実演を行った。）

② 全体提案

小川 正晃（善西中）

研究テーマ『主体的な学びにつながる中学校英語教育のあり方』ーグローバル化に対応した「英語の授業」をめざしてー



③ 分科会

	提案発表者	指導者
第1分科会	渡辺 瑞穂 （善東中）	竹中 龍範 （香川大学教授）
第2分科会	小川 正晃 （善西中）	阿野 幸一 （文教大学教授）
第3分科会	黒田 健太 （善西中）	塩田 寛幸 （元四国学院大学教授）

④ 全体講評

香川県教育委員会事務局義務教育課
主任指導主事 植田 浩之

3 成果と課題

今年度は、4技能を関連づけながら言語活動のさらなる充実を図るために各技能を有機的に結びつけた言語活動の実践に取り組めたと感じている。今後はCAN-DOリストのさらなる効果的な活用について研究し、単元を通してどのような力が身につけばよいかというゴールを明確に示し、生徒が目標に向かって主体的に学習に臨むことができるようにしたい。また、小学校で扱われた語彙や表現などを、中学校の言語活動においてどのように活用していくかについても研究したいと考えている。

養護教諭の専門性の深化をめざして

— 中学校の特有性をふまえた養護実践の構築 —

養護研究部会

1 研究主題について

生活スタイルや急激な社会環境の変化は、生徒の心身の健康に大きく影響を与え、健康問題が複雑化・深刻化してきている。ことに、思春期は、様々な健康課題が顕在化しやすい時期である。このような子どもたちの発達・ニーズに対応するために、専門的な知識やスキル、コーディネーターとしての校内組織や関係機関等と連携・協働、中核的立場での学校保健活動の推進など、養護教諭に求められている役割は広範多岐に及んでいる。

このような中で、多くの養護教諭が「中学校特有の保健室経営」に戸惑いを感じているのが現状である。養護教諭の世代交代が急速に進む中、ベテラン養護教諭の専門的な知識やスキルを確実に伝承するとともに、養護教諭同士の学び合いによる実践的研究を推進し、「専門性の深化」を図っていくことが急務であると考えた。

そこで、養護部会では、27度から本研究主題を設定し、研究を進めてきた。

2 研究の概要及び大会内容

(1) 研究の概要

- ① 高松支部～時代のニーズに対応した保健室経営を通して～
- ② 坂出・綾歌支部～中学生の特性をふまえた保健室経営～
- ③ 丸亀支部～養護教諭の専門性を生かした保健室経営～
- ④ 仲多度・善通寺支部～養護教諭の専門性を生かした保健室経営～
- ⑤ 三豊・観音寺支部～中学校の特有性をふまえた養護実践の構築～
- ⑥ さぬき・東かがわ支部～多様化した健康課題に対応する健康相談の実践と連携～
- ⑦ 小豆支部～中学生の特性をふまえた保健

室経営～

それぞれの支部が、研究テーマに沿って養護教諭の専門性の深化をめざし、資質を高め合える研修に取り組んだ。

(2) 夏季研修会

県教委保健体育課の棚田美佳指導主事に「中学校における保健指導の進め方」と題して講話をいただいた。その後、県教育センターの藤澤 茜先生ご指導のもと、「今、中学生に必要な保健指導とは？」をテーマに、ワールドカフェ方式で会員相互の実践交流の場をもって研修を深めた。

(3) 研究大会

① 研究発表

当番支部である三豊・観音寺支部の研究部長と各グループ代表が、事例体験やDVD視聴、プチ先生の実演を交えながら、3年間の取り組みについて発表した。

ア 「中学校の特有性」と養護教諭に必要な専門性・求められる役割の明確化

イ 課題別グループ研究の推進と実践交流
＜保健管理＞

- フィジカルアセスメント研修（ヒヤリ・ハット事例研修、四肢の外傷に対するアセスメントカードの作成、実技研修）
- 食物アレルギー対応研修

○ 保健室「その他の利用」の対応研修
＜保健教育＞

- 題材の選定と指導案等の作成
- 模擬授業と公開授業による授業研究
- 個別指導資料の作成

＜健康相談＞

- 「事例検討会」についての研修
- 「心の元気度チェック」の実践
- 各種記録様式の作成

ウ 主体的な学び合いを深める研修内容・方法の工夫

② 研究討議

討議内容：「専門職としての知識やスキルアップを図る研修の工夫」・「校内組織を巻き込んで健康教育を推進するための養護教諭の役割」について話し合った。

- 部会や同好会・自主研修など、横のつながりを大切にしながら、研修の場を仕組んでスキルアップを図る。
- 夏季研修会に講師を招いて、専門性を高められる内容の研修を取り入れる。
- ヒヤリ・ハット事例研修や情報交換を通して、常に力量アップに努める。
- 古くなった保健指導用資料を見直すとともに、現代的な課題についても研修し、教材開発を進めていく。
- 年間計画に組み込んで、時間確保と組織づくりをしていく。
- 日頃から情報交換とネットワークづくりをして、周りを巻き込んでいく。
- 保健主事との関係が核になる。教諭の視点は心強く、健康教育の広がりにつながる。
- 管理職や学年主任等、誰に相談したらよいかを見極めて働きかける。

③ 講評 県教委保健体育課

主任指導主事 棚田美佳先生

ア すばらしいチームワークのこれまでにない発表だった。研究討議も活発に行われ、一人職である養護教諭にとって、交流の機会の重要性を改めて感じた。

イ 「保健管理」「保健教育」「健康相談」に重点を置き、中学校に特有な課題や必要とされる力量を明確にして、アイデアを出し合いながら養護実践を積み上げている。

「保健管理」のヒヤリ・ハット事例研修は、自分の対応を見直すための大変有効な研修である。また、食物アレルギー対応については、今回の発表を参考にし

て、各校の実情に合わせて研修を進めてほしい。

「保健教育」の全体指導では、養護教諭同士が互いに学び合い、高め合う工夫がされており、授業の内容にも生徒に考えさせる活動が取り入れられていた。個別指導の資料は、さらに配布できるようにして活用するとよい。

「健康相談」は、養護教諭の重要な職務となっており、まずは生徒の話を傾聴し、情報を把握・整理して、共有することが必要とされている。養護実践を確実に継承するためのさまざまな取組には、ベテランから若手に伝えるだけでなく、共に学び合う姿勢が見られた。資料集も執務の参考になるので、活用してもらいたい。

ウ 法改正により、経験年数に応じて、習得すべき指標が示されている。養護教諭として、それぞれのキャリアステージで必要な資質を身につけていくことが大事である。

エ 今後も、健康課題はより多様化・複雑化し、個別に配慮が必要な生徒の増加が懸念される中、養護教諭に求められるものも、今以上に増えてくる可能性が高くなる。縦や横のつながりを大事にしながら、組織での健康教育を推進できるように、各支部で研究を進めてほしい。

3 成果と課題

各校で同質の実践ができる環境が整い、校内組織を巻き込んだ取組へと広がってきた。また、養護教諭同士の学び合いにより、部会全体のレベルアップも図れた。今後、世代交代を見据えた研修の継続と養護実践を重ね、さらに専門性の深化を図っていく必要がある。

未来社会につなぐ社会認識の構築

～ 授業力の継承、そして創造 ～

社会科教育研究部会

1 研究主題について

社会科部会における本研究主題は、平成23年に起きた東日本大震災を教訓として、平成24年度の全国中学校社会科研究大会香川大会(以下、全中社香川大会)で設定された。未来社会の課題について、ただ内容を知っておくだけではなく、その課題をしっかりと認識し、より安全で誰もが幸福になれる社会をつくろうとする意思を持つ生徒を育成することが教育には求められている。そこで、社会科において、社会認識をしっかりと深める授業実践を継続的に行う必要があると考え、本研究主題は設定された。

2 研究の概要及び大会内容

(1) 研究の概要

教員の授業力の向上を図る研究を継続しながら、研究部会の分け方を三分野(地理的分野、歴史的分野、公民的分野)に発展的に改善する。本年度の研究項目として、社会科授業力を統合した深い学びの実現をめざす。その中で、概念探究過程または意思決定過程の学習指導過程のいずれかの授業を核とした実践をし、社会認識の構築、言い換えれば深い学びの実現を図っていく。

(2) 夏季研修会

① 県立ミュージアム専門学芸員の方による講話

② 国土地理院専門職の方による講話

③ 各郡市の実践交流

各郡市から県の研究に沿った実践事例が報告された。資料やワークシートなどの教材及び指導過程が、若年者の先生方に参考となった。

④ ワークショップ(評価問題の検討)

グループ別に分かれ、持ち寄った自作の思

考・判断・表現の評価問題について、討議し全体で検討した。

⑤ 講演

「社会的構想力と香川県中学校社会科への期待—新学習指導要領を通して—」

香川大学教育学部

准教授 鈴木 正行 先生

(3) 委託研究部会

県教委研究委託を受け、「さぬきの授業基礎・基本」から「主体的・対話的で深い学び」の実践資料を持ち寄って検討し、まとめた。

(4) 若年研究部会

2～4 経教員を対象に、附属坂出中、大川中での授業研究会を行った。討議会では、若年教員による活発な話し合いが行われた。

(5) 秋季研修会

① 分野別研究報告

社会科授業力を統合した深い学びの実現をめざして、今年度、研究及び実践した内容をもとに、各分野での成果と課題を報告した。

② 講演

「社会的意味を追求した深い学びの実現」

広島大学大学院教育学研究科

社会認識教育学講座

教授 草原 和博 先生

3 成果と課題

これまでの社会科部会での研究の積み上げをもとに、分野ごとに実践を行うことで、深い学びにつながる各分野それぞれの課題も明らかになった。

今回、明らかになった課題を手がかりにして、今後も深い学びに向かう研究を継続して行く必要がある。

生活を豊かにする美術の学び

～ 生徒の意欲を引き出す美術の授業づくりをめざして ～

美術教育研究部会

1 研究主題について

美術部会では、研究主題を「生活を豊かにする美術の学び～生徒の意欲を引き出す美術の授業づくりをめざして～」と設定した。思いを大切に、主体的に取り組む生徒、自ら考え自らを表現することの喜びを感受できる生徒の育成を図る。そのために、表現や鑑賞の幅広い造形活動を通して、創造する楽しさを味わわせ、自分らしい見方や感じ方を尊重させ、美術を愛好する心を育てたい。美術の学びが、豊かな感性を育み、よりよい生活を創造していくことにつながると考え、授業改善を中心とした研究に取り組んだ。

研究の重点課題は次の3点である。

- (1) 生活と美術をつなぐ教材の開発
- (2) 創造的な発想・構想力を身に付けさせる指導の工夫
- (3) 形成的評価を生かした指導の工夫

2 研究の概要

本年度は、高松支部において香中研美術部会研修会を開催した。また、夏季研修会では研修会の内容の充実を図るため、生活の中に生きるデザインについての研修を行った。

若年研修会では、鑑賞授業の参観を行い、討議会に参加し、鑑賞授業の技術向上をめざした。

(1) 香中研美術部会夏季研修会

- ① 日時 7月31日(月) 9:00～16:25
- ② 場所 附属高松中学校
- ③ 内容 講話・木工の実技研修

山一木材株式会社熊谷有記さんの講話から、木とわたしたちの暮らしとの関わりについて考えた。木工の実技研修では、使いやすいデザインとは何か、思いを込めた作品作りに大切なことは何かを学んだ。

(2) 香中研美術部会研修会

- ① 日時 11月9日(木) 13:30～16:25
- ② 場所 高松市立香東中学校
- ③ 内容 研究提案・研究授業・討議

研究提案

提案内容	生活と美術をつなぐ教材の開発創造的な発想・構想力を身に付けさせる指導の工夫について
提案者	中川 佳洋(紫雲中) 内原 良二(屋島中) 栞島 克浩(協和中)

研究授業

題材	表現(1年) 使いやすい箸をつくろう
授業者	宮本 由香(香東中)
題材	鑑賞(2年) 木村忠太の作品を鑑賞しよう
授業者	翠 さやか(香東中)

(3) 若年研修会

第1回 9月20日(水) 附属坂出中学校

浮世絵の鑑賞授業参観・討議参加

第2回 10月20日(金) 琴平中学校

鳥獣人物戯画の鑑賞授業参観・討議参加

(4) 委託研究

各郡市の代表者により、学習意欲を高める指導、グループ学習による学び合いについて研究を進めた。

3 成果と課題

今年度は、夏季研修会並びに研修会を通して、題材の開発から、発想・構想力を身に付けさせる指導について、具体的に取組めたことが成果である。しかし、使いやすさと美しさを兼ね備えるデザインを追究するための題材の開発や発想・構想させるための手立て、抽象的な絵画の鑑賞において全員が意欲的に取組むための発問などに、課題が残った。来年度の四国造形教育研究大会に向けて、改善に取り組みたい。

社会の変化に対応し、よりよい生活を創造する技術・家庭科教育

～ 学びの質を高める問題解決的な学習のあり方 ～

技術・家庭科教育研究部会

1 研究主題について

「社会の変化に対応し、よりよい生活を創造する」ためには、各自が主体的に問題に向き合い、お互いに関わり合いながら問題解決をしていかなければならない。そうすることで、一人一人が自ら可能性を最大限に発揮し、よりよい社会と幸福な人生を自ら創り出すことができる。そこで、その基礎として、学んだ知識・技能を活用したり、新しい方法を創造したりして、問題解決的な学習をより一層工夫・改善して、計画的に実践することで、学びの質を高めることが重要であると考え、本研究主題を設定した。

2 研究の概要

(1) 学びの質を高める指導計画の作成

学びの質を高めるためには、計画的に問題解決的な学習を実践することが必要となる。また、新学習指導要領の内容についても十分に検討し、問題解決的な学習を意図的に配置し、系統的に実践できる年間指導計画の作成を行う。

(2) 学びの質を高める問題解決的な学習の工夫・改善

問題解決的な学習をより充実したものにするために「3つの場」を設定し、学習ユニットとした。また、「主体的・対話的で深い学び」と3つの場の関係を生徒と教師の側から整理した。さらに、振り返りシートを活用し、生徒が自らの学習を振り返り、次の課題につなげることで、学びの質を高めるための授業改善に生かした。

本年度は、昨年度までの研究の成果と課題をふまえ、夏季研修会および研修会などで研究を進めた。

【夏季研修会】

技術・家庭科共通

研究討議・指導講話

平成30年の技術・家庭科中四国香川大会に向けての研究の方向性を共有したり、質疑応答を行ったりして、研究テーマや指導技術の向上について討議を行った。

また技術・家庭の各分野の内容ごとに高松と各協力郡市とで授業や発表に向けての経過報告や意見交換なども行うことができた。

・発表者 香川県立高松北中学校 白井和紀
高松市立山田中学校 元山和美

・指導者 香川県教育センター

主任指導主事 大山 修先生
丸亀市教育委員会学校教育課

課長 佐々木 徹先生

香川大学教育学部

宮崎 英一先生 山田 貴志先生

時岡 晴美先生 貞廣美津子先生

松井 剛太先生 妹尾 理子先生

【研修会】

技術・家庭科共通

研究授業・研究討議・指導講話

中四国香川大会に向けて会場校での研究授業を行い、全体研究の方向性に沿っているか、提案性のある授業になっているかなど、討議会にて質疑応答を行った。

3 成果と課題

平成30年度の中・四国大会に向け、研究授業等を行うことで研究を大きく前進させることができた一年間であった。10月には教科調査官にご指導をいただいたことで主体的・対話的で深い学びにアプローチする方向が見え、来年度につながるものとなった。しかし、学びの質を高めるためには、まだまだ実践が少ないことも事実である。大会に向け、数多くの実践と修正を繰り返していきたい。

豊かな心を育て、ともに未来を切り拓く道徳教育

道徳教育研究部会

1 研究主題について

近年、いじめを苦にした生徒の自殺や、非行、殺人事件などの深刻な問題がますます増加している。また、携帯端末やインターネットの普及などによるグローバル化や情報化に伴い、新たな犯罪も発生している。これらの社会問題の原因として、生徒に確かな道徳性が根づいていないことも考えられる。このような現代社会の中で、人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きる子どもたちを育てるためには、子どもたちが夢や希望をもって未来を拓き、みんなと共によりよく生きようとする豊かな心を養うための道徳教育が、極めて重要な課題である。

2 研究の概要

(1) 研究の柱

- ① 道徳の時間の指導の充実
- ② 道徳の時間と他の教育活動との関連
- ③ 道徳教育と家庭・地域社会との連携
- ④ 道徳教育の指導体制と指導諸計画および評価

(2) 夏季研修会（平成29年8月18日）

第1分科会テーマ

「道徳の時間の指導の充実」

協同的な学びによる意識改革を生かして、道徳の授業でも、学習院大学教授（東京大学名誉教授）の佐藤学氏が提唱する「学びの共同体」の考え方を参考にした。全教職員で『みんながもれなく「学び合う」授業づくり』をめざして、取り組んだ。（高松市立協和中学校）

第2分科会テーマ

「道徳の時間と他の教育活動との関連」

日々の教育活動に加え、学校の全教育活

動、特に学校行事に着目し、その特質に応じて道徳の時間を計画した。生徒の望ましい自己の形成や人間関係づくりにつながり、思いやりの心や、協力、責任、公德心などにかかわる道徳性の育成を図った。（丸亀市立飯山中学校）

道徳の年間時数の35時間のうち、道徳の重点目標に関する授業を繰り返して行うよう、年間指導計画を立てた。生徒の自己肯定感を高め、命を大切にしようとする態度を育むことができるような指導の充実を図った。（丸亀市立南中学校）

第3分科会テーマ

「道徳教育と家庭・地域社会との連携」

道徳の時間の指導の充実はもとより、これまでの学校・家庭・地域との協働体制や交流活動を見直した。生徒の心をより豊かなものにし、家庭や地域の人的・物的資源を取り入れた道徳教育の推進を図った。（観音寺市立豊浜中学校）

3 成果と課題

今年度は夏季研の課題別分科会の研究内容の検討や、31年度に行われる四国大会に向けての具体的な計画に取りかかった。

「特別の教科 道徳」の実施に向けて各校で準備を進め、平成31年度から確実に全教員で実施できるようにすることが今後の課題である。

なかまと協働し、主体的に行動できる生徒の育成

～ 話し合い活動を軸として ～

特別活動研究部会

1 研究主題について

少子高齢化やAIの飛躍的な進化等、急激な変化を遂げる現代社会において、生徒が抱える困難さも多岐にわたっている。平成33年度から全面実施となる中学校学習指導要領の中で、今の子どもたちが社会で活躍する頃には、我が国は予想困難な時代となり、一人一人が持続可能な社会の担い手として新たな価値を生み出していくことが期待されるとある。また学校教育には、そのような変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことが必要だと述べられている。つまり、他者と互いに協力しながら問題解決を自ら探っていく能力や困難に直面した際に、それを乗り越えて目標を達成しようとする態度を身に付けることは、これからの社会を生き抜くために不可欠であると考えられる。

そこで、特別活動研究会では、昨年度に引き続き、今年度も「なかまと協働し、主体的に行動できる生徒の育成」を研究主題とした。今年度、各校では、昨年度までの実践に加え、主体的に行動できる生徒育成のためのサブテーマである「話し合い活動を軸にして」に焦点を当てた取組を深めてきた。本年度の研究を受けて平成30年度には、さぬき南中学校で、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善のためアクティブラーニングの視点にたった研究授業や発表がされる予定である。

2 研究の概要

本年度は夏季研修会で各支部の実践発表並びに講師の先生に指導をいただき、特別活動の指導の在り方について考えた。

(1) 各支部の主な発表内容

高松 「なかまたいせつ」の合い言葉をもとにした太田中の実践

丸亀 綾歌中の小中一貫教育の取組

さ・東 志度中のJRC委員会での取組

小豆 「島カップ」を通じた小豆島中の実践
坂・綾 年間を通しての兄弟学級の取組
仲・善 郡市内5校における各校の効果的な話し合い活動の実践

三・観 生徒会幹部講習会における取組

(2) 指導・助言

香川県教育委員会事務局義務教育課

主任指導主事 長町 裕子氏

指導・助言の主な内容

・各郡市の発表について

・特別活動における国の方向性

各郡市の発表について、それぞれの長所や学習指導要領との関連性などの確認がなされた。また、学校行事や生徒会での取組、スローガンなどを通して、生徒と教師が目標を共有できるなどの具体的な指摘があり、改めてそれぞれの活動の目標や方法の重要性を再確認できた。また、既存の行事に頼るのではなく、常に生徒の生の声や現状に合わせて、生徒が学校づくりに直接関わるようにするしかけなども大切になってくること、何よりも生徒を信じて、教師自身も楽しむことが大切であることが述べられた。

また、指導要領改訂のポイントについての説明では、資料の提示やグループ討議などが交えられ、今後の方向性を知る良い機会となった。

3 成果と課題

各支部の発表では、昨年度に比べ、他学年や他校など、様々な集団においての話し合い活動に焦点が当てられており、サブテーマをより意識した取組が多く見られた。今後は香川県の生徒が抱える問題や各校の課題を明確化し、それらを生徒と教師が共有していくことが必要である。そのためにも活動前後の話し合い活動の位置づけや振り返りなどがこれまで以上に重要になってくると考える。

チームの力で取り組む生徒指導の推進

～ 生徒の規範意識を醸成する効果的な取組の充実 ～

生徒指導研究部会

1 研究主題について

生徒指導において、生徒一人ひとりの健全な成長を促し、生徒自らが現在及び将来における自己実現を図っていくために必要な力の育成をめざしている。そのためには、生徒にどのような資質・能力の育成をめざすのか、各校で育成すべき資質・能力を明確にし、全ての教職員や地域が、課題や目標を共有し、チームとして対応していくことが重要であると考えテーマを設定した。

2 研究の概要

(1) 役員研修会

① 第1回 平成29年5月23日(火)

- ・事業計画、予算等について
- ・夏季研修会について
- ・各郡市の状況について情報交換

② 第2回 平成29年11月10日(金)

- ・夏季研修会についての振り返り
- ・平成30年度研修会について
- ・各郡市の状況について情報交換

(2) 夏季研修会

平成29年8月18日(金) 高松テルサ

【講演1】「事例から学ぶ非行へのアプローチ ～学校と関係機関の連携を考える～」

香川県教育相談室 メンタルヘルス相談員
廣田 邦義 氏

(講演のポイント)

- ・初任者のメンタルヘルスが大切
- ・家庭に入っていく限界
- ・見立てが立てば手立てが見える
- ・校内でのケース会が有効
- ・具体的な援助や次の一手を考える
- ・各種非行を考える
- ・非行からの回復(分岐点は18歳、誰と出会うか)

【講演2】「チームで取り組む生徒指導 ～発達障害が背景にある場合～」

香川大学教育学部 准教授
山本 木ノ実 氏

(講演のポイント)

- ・生徒指導のⅢ機能(自己存在感、共感的

人間関係、自己決定)

- ・発達障害の理解(学習の問題、社会性の問題、行動の問題)
- ・LDやADHD、自閉スペクトラム症の子どもへの誤解と支援
- ・二次障害の兆候と予防
- ・日常の関わり(ほめる、話を聞く、許容範囲を広げる)
- ・校内支援体制(チームで関わることの効果)

【講演を聴いての感想より】

- ・学校と家庭裁判所の両方を経験されている話は、もう少し聞いてみたいと思った。
- ・発達障害が背景にある生徒への指導方法について、理論と対策がわかった。
- ・今までにない生徒指導の観点で、今まで知らなかった知識を得ることができた。
- ・あらためて生徒指導は「チームで粘り強く、柔軟に」が大切だと感じた。

▲演習できる活動があれば、なお身につくのではないかと

3 成果と課題

「チームの力で取り組む生徒指導の推進」を目標として、各支部において各校の現状にあわせた取組がなされ、実践報告や情報交換を行ってきた。各校が「チーム」として取り組むために、いかにして目標や取組の共通理解を行ったかという事例を報告した。他校の事例をもとに自校の取組を見直すよい機会となった。

夏季研修会では、臨床心理士や発達障害を専門とされている准教授から、生徒のとらえ方や対応の仕方について、対応の仕方と共に、チームとしてはどのような取組が必要か具体的な示唆をいただいた。

新学習指導要領では、「学習指導と関連づけながら、生徒指導の充実を図ること。」とあるため、学習指導や教育活動に「自己決定の場を与える」「自己存在感を与える」「共感的人間関係を育てる」という生徒指導三つの機能を取り入れ生徒の育成とともに、集団づくりにあたるのがこれからの課題と考える。

学びを人生や社会に生かそうとする生徒の育成

— 主体的・対話的で深い学びを支えるメディア教育の推進 —

メディア教育研究部会

1 研究主題について

各学校に光回線による高速インターネット環境が整備され、ストリーミングをはじめとする映像配信を受信することが可能になった。また、校内LANが無線化され、タブレットPCなどで校内のどこにいてもインターネットに接続できる環境が整いつつある。このことにより、放送番組を授業で活用することが容易になってきた。また、それらはWebで配信されているため、インターネットに接続すれば、学びたい時にいつでも学習できる環境が整ってきているとも言える。本年はそのような教育番組の制作者を招き、メディアの可能性やこれからの方向性について研修を深め、これからのメディアを活用した学びについて探っていくことにした。

2 研究の概要

(1) NHK杯全国中学校放送コンテスト

- ① 香川県予選 7月28日(金)
NHK高松放送局(CD・DVD審査)
 - 参加数(参加12校)
 - ・アナウンス部門 24作品
 - ・朗読部門 32作品
 - ・ラジオ番組 3作品
 - ・テレビ番組 3作品
- ② 全国大会予選 8月5日、6日
(CD・DVD審査 非公開)
 - 香川県予選通過(参加7校)
 - ・アナウンス部門 6作品
 - ・朗読部門 6作品
 - ・ラジオ番組部門 1作品
 - ・テレビ番組部門 1作品
- ③ 全国大会本選 8月18日
千代田放送会館2Fホール
(CD・DVD審査 公開)
 - 県内入賞作品
 - ・朗読部門 入選1作品

(2) 夏季研修会

- ① 日時 8月18日(金) 9:00~12:00
- ② 場所 情報通信交流館
e-とびあ・かがわ

③ 研修内容

ア 全体会：講話

「デジタル時代の学校教育とメディアを考える ～新しい可能性を子どもたちの成長にどう生かすか～」

HK放送文化研究所メディア研究部

宇治橋 祐之 氏

イ 分科会：実習

- ・Windows10実習
- ・メディアリテラシー講話

「若年層に人気のアプリとトラブル」



3 成果と課題

夏季研修会では、NHK放送文化研究所の宇治橋祐之氏を招聘し、NHK for Schoolをはじめ、放送教育番組について講演をいただいた。同Webサイトには教科指導から道徳・特別活動まで幅広い番組の映像がいつでも視聴できるようになっており、指導案やワークシート等もそろっている。これらの紹介と操作方法について分かりやすく説明・指導していただいた。また、e-とびあ・かがわのWindows10講座ならびに中高生のメディアリテラシーについての研修も受講し、基本的な操作方法や使用上の注意点などが研修できた。

豊かな人権文化の創造をめざす人権・同和教育

人権・同和教育研究部会

1 研究主題について

人権・同和教育に関するこれまでの様々な取組と蓄積によって、人権尊重の理解と意識は高まりと広がりを見せているように思われる。しかし、人権の世紀と言われる今世紀において日本では依然として同和問題をはじめ多くの人権課題があり、国際化、情報化などの進展で新たな人権課題も生じている。人権課題の解決につなげていくために、教育現場の役割は大きい。人権尊重の視点で貫かれた学校づくり（人権文化の創造）を展開し、生徒が自分・他者ともにかけがえのない存在であると認め合い、互いを尊重し合う集団づくりをしながら、人権課題解決に向けた意欲と実践力の育成を図りたい。

2 研究の概要

(1) 夏季研修会

① 『一人ひとりが大切にされる温かい集団づくり』

観音寺市立大野原中学校

真鍋 正史・森 由加理

支援を必要とする生徒や様々な面で悩みを抱えている生徒への積極的な関わりに主眼を置き、見つめ・語り合い・つながり・支える、温かい集団づくりを図っている。取組によって、生徒が変容するとともに、教職員の人権意識の高まりが見られた。（香同教大会でも報告）

② 『よしさんとともに』

高松市立紫雲中学校

森木 淳・多田 恭啓

児童養護施設出身のよしさんへの関わりから、一部の教職員や生徒だけが関わるのではなく、全ての教職員と生徒が支援し合い・高め合う集団をつくることの必要性を学んだ。学校全体で「なかもづくり」を進めることの大切さと教職員の意識改革の重要性を再認識した。（香同教大会でも報告）

③ 『それぞれの思いをつなぐ』

丸亀市立東中学校 谷 敏哉

将来に夢や目標がもてず、「高校に行かない」と言っていたしおり。母親の思いや願いを知り、なかもづくりの活動を通して自信をもつ姿へと変わっていく。また、保護者会も、子どもたちが部落問題を考える場にしようとして親子のつどいの在り方を変えようとし始めた。（全人教大会でも報告）

(2) 四国地区人権教育研究大会

① 『太郎さんと一緒に1070日』

丸亀市立西中学校 亀山 京子

「地域の学校で、地域の子どもたちと学ばせたい」という保護者の願いを受け止め太郎さんを中心に学級経営を展開する。日常生活を通して、生徒は太郎さんへの理解を深め、つながっていく。教師も力を付けながら、学年や学校へとその力を広げようと決意する。

② 『成長する可能性を感じることでできる中学校生活に』

綾川町立綾南中学校

宮西 正樹・後藤 聡

学力向上、進路実現を視点に、生徒一人ひとりがもつ困難さに向き合い、適切な関わりを深めることに全職員で取り組んできた。特に、個別の働きかけを意図的に増やし、相談・助言・激励、賞賛、個別指導を繰り返し、学習意欲や学習習慣の形成、学力向上を図った。

3 成果と課題

同和教育を基軸とした人権教育の意義と重要性はこれまでも増して高まっている。成果をあげた今回の報告で共通して見られたのは、温かい集団づくりと生徒や保護者の願いを受け止め、教職員集団が意識改革を行い、共感し関わってきたことである。「いちばん話したくないことは最も話したいこと、聞いてほしいこと」だ。子どもたちの思いや課題を「背負う」覚悟を心に留め、今後も実践を積み重ねていきたい。

豊かな心と学ぶ力を育てる学校図書館教育

学校図書館研究部会

1 研究主題について

読書には「豊かな心」を育てるとともに、学校図書館を中心に据えた「学ぶ力」を育成するという大きな役割がある。

また、学校図書館は「読書センター」「学習センター」「情報センター」としての役割を持ち、全ての教科、全ての教育活動において計画的・効果的に活用されることが望まれる。

このようなことから、学校図書館部会では、生徒たちがよりよく生きるための「豊かな心」と「学ぶ力」を身につけられることを目的とし、図書館教育を進めたいと考え、本研究主題を設定した。

2 研究の概要

(1) 夏季研修会

① 期日 平成29年8月18日（金）

② 場所 香川県立文書館

③ 内容

ア 四国大会に向けて実践報告

「本を活用し、他者とつながり合う読書活動の工夫」

観音寺市立豊浜中学校

教諭 圖子誠治

イ 講演・ワークショップ

「ビブリオバトルについて」

四国学院大学 田中絃一先生

④ 参加者 52名

豊浜中学校の実践報告では、①学校図書館や図書を活用した授業実践、②読書環境の整備、③学校司書との関係の3つの観点から「他者とつながり合う読書活動」について紹介していただいた。特に①の授業実践では、国語・理科・英語・技術家庭科の4教科の実践があり、「学習・情報センター」としての学校図書館の活用のしかたを提案していただいた。

田中絃一先生による講演では、昨年の高校生のビブリオバトル香川県大会の実際の映像

を交えながら、ビブリオバトルへの思いや公式ルールについて教えていただいた。子どもたちを本に結びつける方法の1つとしてビブリオバトルやアニメーションがあること、ビブリオバトルはあらかじめ原稿を作らず気軽に行い、ライブ感を楽しむものであること、また本を通して話し手の生の心に触れる、つまり心のつながりを感じさせてくれるものであるとのお話であった。

講演の後のワークショップでは、実際にグループごとにビブリオバトルを実践し、2回戦まで行った。普段接することの少ない他郡市の先生方とグループを組み、楽しい雰囲気の中でビブリオバトルを実践することができた。



3 成果と課題

現時点では「学習・情報センター」としての学校図書館の活用については実践事例が少なく、豊浜中学校の実践は大変参考になるものであった。またビブリオバトルのワークショップは実際に体験することでその楽しさを味わい、2学期から取り入れたいという感想が多く出された。

学校図書館の「学習・情報センター」としての機能の活用が各教科等で図られ、生徒の学びを充実させるための研究実践を今後もさらに継続していきたい。

未来を心豊かで健やかに生きるための学校保健のあり方

— 健康的なライフスタイルについて考え、改善する力の育成 —

学校保健研究部会

1 研究主題について

豊かな生活、情報社会の中で、現代の子どもたちは、様々な条件の中から正しい答えや自分に合ったものを考え選び抜く力が求められている。健康教育に関しても同様であり、特に自立へ向かう中学生の時期にとって、何をどのような視点で選び実行すべきなのかという基準（健康観）を身に付けることは、将来をより健康に生きていくために重要であると考えている。

そこで本部会では、研究主題を「未来を心豊かで健やかに生きるための学校保健のあり方」とし、サブテーマを「健康的なライフスタイルについて考え、改善する力の育成」としてどのような機会を活用し指導や支援を行うべきなのか平成31年度の研究大会に向け担当支部を中心に実践研究を進めていくことにした。

2 研究の概要

(1) 各支部での取組

学校内外での「自ら考える」をキーワードに各支部でテーマを設定し、研究実践を行っている。平成31年度研究大会担当の仲多度・善通寺支部を中心に記載する。

【仲多度・善通寺】未来を心豊かで健やかに生きるための学校保健の在り方 —健康的なライフスタイルについて考え、改善する力の育成—

ア. 「生活習慣」について仲善地区の全中学校で共通のアンケートを実施した。このアンケートにより生徒の実態、変容、課題等を把握し、生活改善に役立てるようにした。

イ. 各行内における保健教育の推進し睡眠についての講話や、外部講師による「いのち」「喫煙防止」「性教育」についての講演、食に関する指導など生徒の今の生活に視点をおいた指導を実践した。

【小豆】未来をより健康に生きる生徒の育成 —中学生の生活習慣と心身の健康について—

【さぬき・東かがわ】未来をより健康に生きるための保健教育の創造 —生徒の気づきを促し、健康観と実践力を育てるための指導の工夫—

【坂出・綾歌】未来を心豊かで健やかに生きるための学校保健の在り方 —自らライフスタイルについて考え改善する力の育成—

【丸亀】未来を心豊かですこやかに生きるための学校保健の在り方 —自らライフスタイルについて考え改善する力の育成—

【高松】未来を心豊かで健やかに生きるための学校保健のあり方 —健康的なライフスタイルについて考え、実践する力の育成—

【三豊・観音寺】未来をより健康に生きるための保健教育の創造 —健康的なライフスタイルの確立をめざした指導の工夫—

(2) 夏季研修会

① 指導講話

「学校保健の現状と課題について」

香川県教育委員会事務局保健体育課

棚田 美佳 主任指導主事

② 実習「応急処置・応急手当の実践」

日本赤十字社香川県支部事業推進課

太田 貴勝 主事

3 成果と課題

夏季研修会では、棚田主任指導主事より食物アレルギーの現状と、危機管理体制における学校と専門機関との連携、初動の実際と初期対応について指導助言をいただいた。また、応急処置・応急手当では新ガイドラインでの実習とハイムリック法による異物除去の実践を行った。各学校での健康教育、安全管理体制について、連携を視点として改めて考える機会となった。

長期的な視野に立ち、共に高め合う特別支援教育をめざして

— 一人一人がいきいきと輝く教育活動のあり方 —

特別支援教育研究部会

1 研究主題について

本年度も研究主題を「長期的な視野に立ち、共に高め合う特別支援教育をめざして」と設定した。これは子どもたち一人一人がいきいきと輝き、将来にわたって長期的な展望の下、多様なニーズに応じた支援を受けていくことを願ったものである。そのためには我々教員が就学指導や進路指導、各関係機関との連携、各家庭との日常的な情報交換などをしっかりとしていくことが担当者としての責務であるという基本的な考えに基づいて、日々の努力や研修を積み、資質の向上をめざす。さらに、生徒同士、教員と生徒、教員同士が共に高め合う、より質の高い特別支援教育をめざしている。具体的には、「教科指導」「各教科等を合わせた指導」「交流及び共同学習」「LD・ADHD等への支援」の4つの課題について各支部で研究を推進していくこととした。

2 研究の概要

(1) 夏季研修会

- ① 期日 平成29年8月18日（金）
- ② 場所 観音寺市立中部中学校他
- ③ 内容

ア 小中合同全体会

・【小学校提案】

「一人一人のニーズに応じた特別な支援の在り方～学校全体で取り組む支援をめざして～」

さぬき市立造田小学校 永坂真実

・【中学校提案】

「どの子にも学ぶ喜びを—共に学び合う特別支援教育をめざして—」

高松市立古高松中学校 三好恭子

・【講演】

「特別な支援が必要な児童生徒への合理

的な配慮をどう考えるのか？」

香川大学教授 坂井 聡 氏

イ 中学校分科会

・【教科指導】

「教科における個に応じた支援の工夫」

土庄町立土庄中学校

亀井清美 森 幸誉

・【各教科等を合わせた指導】

「生き生きと学校生活を送るために—特別支援学級での取り組み—」

高松市立龍雲中学校 藤澤正憲

・【交流及び共同学習】

「長期的な視野に立ち、共に高め合う特別支援教育をめざして—一人一人がいきいきと輝く交流学習会のあり方—」

丸亀市立綾歌中学校 六車信子

・【LD・ADHD等への支援】

「発達障害のある生徒への支援」

宇多津町立宇多津中学校 濱田育代

3 成果と課題

夏季研修会では活発な質疑応答が行われ、研修を深めることができた。また、県教委事務局特別支援教育課主任指導主事 大西祥弘先生、香大教育学部附属特別支援学校 藤尾知成先生から指導・助言をいただき、さらに有意義な研修会となった。

来年度も会員相互に日々研鑽を積み、協力して研究を進めていきたいと考えている。

ふるさとで心豊かに学び、新しい時代を切り拓く子どもの育成

～ へき地・小規模・複式学級を有する学校の特性を生かした
学校・学級経営と学習指導の深化・充実をめざして ～

へき地教育研究部会

1 研究主題

へき地の子どもたちは豊かな自然に囲まれ、地域の人々の温かさの中で育っている。一方、校区内では少子高齢化が進み、日常生活や学校生活の中で同年代の子どもと切磋琢磨する経験が減ってきている。そのため、子どもたちの特徴として、純朴ではあるものの受け身であり、また、人間関係が固定化するため、コミュニケーション力の向上という点においても課題が感じられる。

このような現状を踏まえ、へき地教育研究部会では、21世紀を生きる児童・生徒に、地域の一員として「ふるさと」から学び、「ふるさと」を誇りに思う人間力豊かな子どもに育てほしいとの思いで、本研究主題を設定した。

2 研究の概要

(1) 実践の概要

上記研究主題を受けて、各地域・各学校の特色を生かした研究実践を、各校において推進する。各校の取組については、夏のへき地教育研修講座で情報交換を行う。

(2) 夏季研修講座

- ① 期 日 平成29年7月27日（木）
- ② 場 所 高松市生涯学習センター
（まなびCAN）
- ③ 参加者 へき地校勤務教職員80名
- ④ 内 容

ア 全体会（講演）

「へき地教育の魅力とその思い」

講師 伊井 一雅 先生

（元全国へき地教育研究連盟会長）

講師の伊井一雅先生は、平成29年3月に丸亀市立南中学校長を定年退職され、現在は丸亀市立東中学校で勤務されている。へき地校

で、また、大規模校で、あるいはアメリカのフィラデルフィア日本語補習授業校でと、様々な勤務経験を通して学ばれたこと、更には、全国へき地教育研究連盟会長を務められた経験から感じられたことを、具体例を交えて分かりやすく、そして熱くご講演いただいた。

イ 分科会

テーマ「学校の特性を生かした豊かな学びの育成」

(ア) 【小学校提案発表】

小豆島町立池田小学校

「ふるさと池田を愛し、心豊かで、たくましく生きる子どもの育成—確かな学力と豊かな心を身につけた子どもの育成をめざして—」

(イ) 【中学校提案発表】

直島町立直島中学校

「自立・共生—自他を尊重する精神を高める—」

(ウ) 【グループ別討議会】

全14グループに分かれての討議

ウ 指導・講評 香川県教育委員会事務局
義務教育課 九郎座仁美 主任指導主事
・池田小・直島中の実践について
・へき地校のメリットについて

3 成果と課題

各校の取組に、地域の特性を生かした工夫が見られた。小規模校の利点は、何より一人一人の子どもにとって活躍の場が十分保障されることだと考える。九郎座主任指導主事からの指導にもあったように、「子どもが学校づくりの参画者になれる」へき地校のメリットを大切にして、それぞれの特性を生かした指導の工夫について今後も研究を深めていきたい。

未来につなぐ ひろがる学校事務

学校事務研究部会

1 研究主題について

学校全体としてチーム力を高めていくことが求められているなか、学校事務職員も、その専門性を高め、教育活動を支援していくことが期待される。そこで、地域・教職員・児童生徒と事務職員をつなぐ、事務職員同士をつなぐ、次の世代につなぐ、そして未来に向けて多くの可能性がひろがるようにという思いから主題を設定した。昨年度に引き続き、この主題のもと各支部で研究・実践を行っている。

2 研究の概要

(1) 夏季研修会

- ① 期日 平成29年8月21日（月）
- ② 場所 観音寺市民会館
- ③ 内容

講演 「次世代の学校づくりを具現化する
学校マネジメントと業務改善の在り方」

鳴門教育大学教職大学院教授 久我直人氏
及び仲善・三観支部中間発表

(2) 各支部の研究

〈高松〉

「未来を見つめた学校事務の創造—『チームとしての学校』実現に向けた事務職員の役割—」財務・給与等6領域で活動し、その成果を事務処理の効率化、教員の事務負担軽減、事務職員の学校運営参画に活かす。人材育成と世代交代のための若年支援の研修も行う。

〈丸亀〉

「未来につなぐ ひろがる学校事務」学校事務の組織的ネットワーク化を推進し、情報共有や相互支援による事務処理能力の向上、関係機関との連携による適正かつ円滑な事務処理に努めるとともに、市教育クラウドの活用による効果的な教育支援の実践に取り組む。

〈坂出・綾歌〉

「新しい時代の教育環境づくり」地域社会に開かれた元気で安心できる学校づくり推進のため、チーム学校の一員として事務職員の果たすべき役割についての研究推進を継続しつ

つ、知識や能力を主体的・協働的により有効に使えるように実践・研究を行う。

〈三豊・観音寺〉

「チーム力を生かした新たな学校事務の実現をめざして」部会や共同実施のチームでの取組や外部からの期待を把握することで、事務機能の充実と新たな学校事務の実現について考察を深める。マネジメント手法を取り入れ、課題や目標を共有した行動計画書を活用する。

〈仲多度・善通寺〉

「楽になろうよ～業務の効率化・改善から～」学校現場の負担軽減を目標に「学費事務」と「事務引継ぎ」をテーマに関係機関との連携も視野に入れた広がりのある業務改善を進める。合わせて、情報共有を軸に初任者等の支援体制を整え、専門職としての資質向上を目指す。

〈小豆〉

「島の未来を見据えた教育環境づくりの推進」事務職員の減少とともに世代交代の現状を踏まえ、学校事務の標準化・システム化に向けた研究をさらに推進し、数年先を見通した研究計画を立て、継続的な研究と課題解決の研究を進める。町別研究成果を全体で実践する。

〈さぬき・東かがわ〉

「チーム学校の一員として」これまでの研究成果を両支部相互に還元するとともに、教職員負担軽減のみならず、児童生徒が安全・安心な教育環境のもとで充実した教育活動が行えるよう、防災環境整備等の具体的実践によるチーム学校としての教育支援を行う。

3 成果と課題

学校体制の充実及び運営の改善を図るため、事務職員の職務について、より主体的・積極的に校務運営に参加することをめざし、「事務をつかさどる」と学校教育法が改正された。今後もチーム力を生かして研究を進め、専門性を発揮できるよう資質向上を目指し、実践につなげたい。

自立し、自分らしい生き方のできる力を育てるキャリア教育

進路指導研究部会

1 研究主題について

産業・経済の構造的変化や雇用形態の多様化・流動化を背景に、将来への不透明さが増幅する中、学校教育全般をキャリア教育の視点に立って見直すことで、生徒一人一人が自分らしい生き方のできる力を育てるために、どのような指導が必要かについて研究を進める。

2 研究の概要

(1) 第1回研修会

- ① 期日 平成29年6月9日（金）
- ② 場所 県教育センター
- ③ 内容 ・28年度事業報告
・29年度事業計画

(2) 夏季研修会及び第2回研修会

- ① 期日 平成28年8月18日（金）
- ② 場所 高松テルサ
- ③ 内容
ア 研究実践発表
・高松支部の実践発表
庵治中学校 教諭 千葉 秀幸
・三豊・観音寺支部の発表
和光中学校 教諭 三好 利宏
イ 指導・講話
香川県教育委員会義務教育課
主任指導主事 土岐 浩司 氏

(3) 第3回研修会

- ① 期日 平成29年11月21日（金）
- ② 場所 県教育センター
- ③ 内容 ・29年度事業報告、会計報告
・30年度計画

夏季研修会での発表内容

【庵治中学校】

- 職場体験学習を通して教師評価や生徒による相互評価の場を設けた。個人でのまとめ新聞づくりを行い、「自分発見」の機会を作っている。
- 職場体験学習の学びを「人権集会」での学年団発表につなげる。職場体験学習での

相互評価を基に発表者・司会者を選び、「発信の手法（表現の工夫）」を他の生徒に学ばせる。

Q. 相互評価の場について。（観音寺中）

A. 実行委員を設け学校全体で実施。あらゆる場で生徒に光が当たるようにし、前に出ることが少ない生徒にも活躍の場を作っている。

【和光中学校】

- 各学年の発達に応じて、3年間で計画的な進路指導をしている。
- 進路決定に向け、夏休みの進路PTA（学年別）を皮切りに2・3学期の予定を保護者に配布。保護者との協力の下で進路決定。
- Q. 職場見学場所の選定方法（引田中学校）
- A. 地元にならないような職種、生徒が興味関心をもっている職場に申し込む。興味関心がある職種は、事前アンケートをとっている。

3 成果と課題

夏季研修においてご指導いただいた内容より、今回の実践において、事前事後の取り組みと職場体験学習を組み合わせることで、意識面におけるキャリア形成の一助となるのが成果としてあげられる。キャリア教育の課題は、次の4点だと答申の中でも述べられている。

- ① キャリア教育＝職場体験活動になっていないか
- ② 勤労観・職業観の醸成が小学校段階で時期尚早と考えていないか
- ③ 「夢を持つ」「仕事を調べる」が固定的なキャリア教育授業になっていないか
- ④ キャリア教育＝進路指導と考え、進路のみに偏っていないか

特別活動を要としつつ、各教科などの特質に応じて、キャリア教育の充実を図る必要があるという助言をいただいた。

豊かな心とたくましく生きる力をはぐくむ食育のあり方

— 学校給食における「生きた教材」を活用した指導力の向上をめざして —

学校給食研究部会

1 研究主題について

平成17年に「食育基本法」が制定され、食育は生きる上での基本であり、「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てると示されている。学校の教育活動全体において食育を推進していく中で、学校における食育の中心となる学校給食を生きた教材として活用して、望ましい食習慣の形成や郷土の食文化を理解するとともに、好ましい人間関係を築き、豊かな心とたくましく生きる力を育むことができると考え、本研究主題を設定した。

2 研究の概要

(1) 夏季研修会

- ① 期日 平成29年8月18日（金）
- ② 場所 高松市国分寺会館
- ③ 内容

ア 実践発表

- 「丸亀市および綾歌中学校、飯山中学校における取り組みについて」

丸亀市立綾歌中学校

栄養教諭 藪内 咲希

丸亀市立飯山中学校

講師 北本恭仁子

市内では食育推進連絡協議会があり、食に関する全体計画等が共有され、幼小中が連携して食育に取り組めるよう体制整備がなされている。教員間・地域・家庭と連携した食に関する授業実践や実践力につなげる食育活動の紹介があった。

- 「仲多度・善通寺地区における野菜摂取に向けた取り組み」

まんのう町立満濃中学校

教諭 田中 菜未

栄養教諭 十河沙也加

委員会活動で給食残菜を減少させることができ、野菜摂取量の増加に繋がった。さらに栄養教諭や食文化博士による野菜に関する知識・技術の向上を図る授業実践など、各校の工夫された取り組みが紹介された。

イ 講演 新しい味覚教育の取り組みについて —五感を通して—

講師 香川大学教育学部

教授 山神 眞一 先生

豊かな感性を育む教育が必要となってきたおり、五感を通した脳の活性化が重要であるとお話をいただいた。フランスでは、授業の中に食育や味覚のカリキュラムを取り入れ、積極的に味覚教育を行っており、「調理中の音(聴覚)を聴き、香り(嗅覚)を嗅ぎ、味(味覚)や色(視覚)を知り、火を使えば熱(触覚)を見ながら調理をする」ことから、調理は子どもの五感を研ぎ澄ますことができる手段である。調理実習をはじめ、さらに経験を積ませることができるよう努力したい。

また「日本人が感じる旨味は、経験がないと認識できない」という考え方もあり、幼い頃から給食などを通して様々な食に触れることの大切さを改めて感じた。

3 成果と課題

夏季研修会の研修は、各校における食育の推進に役立てることができた。今後も学校給食を生きた教材として活用し、食育を進めていくことが大切である。また、学校、家庭、地域が連携して子どもたちの豊かな心と健康な体、そして自己管理能力を育てていきたい。

IV 事業報告

本 部

1 平成29年度研究主題

「教職員一人一人の資質能力と意欲の向上を図り、学校の教育力を高める研究会活動」

2 活動方針等

(1) 活動方針

香川県教育委員会及び市町教育委員会、香川県中学校長会との連携を一層深め、大きく変革している学校教育を取り巻く様々な課題に対応できる実践的な教育研究を進め、県下中学校教職員の指導力や資質・能力の向上に努め、生徒の学力向上を図る。

(2) 運営体制

会長と支部長、各教科・教科外研究会長との意思疎通を十分に図り、香中研全体が組織的かつ機動的に活動できるよう努める。

3 役員会及び運営委員会

(1) 第1回

役員会 5月16日(火) 14:00~16:25

運営委員会 5月25日(木) 10:00~11:40

(2) 第2回

役員会 7月21日(金) 14:00~16:25

運営委員会 8月1日(火) 14:00~16:25

(3) 第3回

役員会 11月24日(金) 14:00~16:25

運営委員会 12月1日(金) 14:00~16:25

4 各支部・部会の事務局長・会計長会

(1) 第1回 5月25日(木) 14:00~16:25

(2) 第2回 2月13日(火)、15日(木)
13:30~16:25

5 調査研究活動

(1) 香中研の組織・運営・研究方針に関する研究協議

(2) 香中研研究大会及び夏季研修会の効果的な運営に関する研究協議

(3) 研究会による研究推進及び研究報告書等の研究協議

(4) 香川県教育委員会からの委託研究

6 研究大会及び研修会

(1) 支部夏季研修会 7月28日(金)

(2) 教科夏季研修会 7月31日(月)

教科外夏季研修会 8月18日(金)

(3) 教科及び教科外研究大会7部会

音楽部会(中四) 10月27日(金)

国語部会(県) 11月9日(木)

数学部会(県) 11月9日(木)

理科部会(県) 11月9日(木)

保健体育部会(県) 11月9日(木)

英語部会(県) 11月9日(木)

養護部会(県) 11月9日(木)

7 研究成果刊行物・その他

(1) 「研究紀要」第58号、「香中研だより」

香川県教育委員会、同各教育事務所、香川県教育センター、市町教育委員会、県内大学、各中学校会員に配布

(2) 「研究紀要」URL

<http://www.kachuken.jp/honbu/news/>

高松支部

1 研究主題

「教職員一人一人の資質能力と意欲の向上を図り、学校の教育力を高める研究会活動」

2 高松地区中学校教育研究会総会

総会は開催せず、部会ごとに紙面での報告
内容 平成28年度事業報告・決算報告
平成29年度事業計画・予算審議
各部会（教科・教科外）事業計画
役員選出、研究の進め方等

3 研究大会

(1) 平成29年度高松地区中学校教育研究大会 （北ブロック）

期日 平成29年11月17日（金）

○高松市立桜町中学校

研究主題 「生涯学び続ける態度の育成—学
ぶ楽しさを実感できる授業—」

(2) 平成29年度高松地区中学校教育研究大会 （南ブロック）

期日 平成29年11月1日（水）

○高松市立協和中学校

研究主題 「みんながもれなく『学び合う』
授業づくり～協同学習による授業改善～」

○高松市立塩江中学校

研究主題 「確かな学力を育てる学習指導の
在り方～学びのときめきを実感できる授業づ
くりと教師の指導の在り方～」

4 教科研究会・教科外研究会

(1) 教科研究会

定期試験前日の午後を中心に、関係中学校
や総合教育センター等において、部会ごとに
研究授業及び実践研修等を行った。

(2) 教科外研究会

定期試験第1日目の午後を中心に、関係中
学校や総合教育センター等において、部会ご
とに実践研修等を行った。

5 研究成果の発刊

部会ごとに研究紀要を作成、各部会員及び研
究大会への参加者に配布

丸亀支部

1 研究主題

「教職員一人一人の資質能力と意欲の向上を
図り、学校の教育力を高める研究会活動」

2 主な研究会・行事

(1) 丸亀支部代表者研修会

日時 4月7日（金）14:00～16:00

会場 丸亀市立綾歌中学校

内容 研究主題について検討

年間計画、総会の打ち合わせ

(2) 総会並びに第1回部会

日時 5月2日（火）13:40～16:20

会場 丸亀市立西中学校

内容 研究主題、研究計画、組織等の決定

教科部会（11部会）

教科外部会（12部会）

(3) 市夏季研修会

日時 7月28日（金）9:00～

会場 丸亀市立西中・綾歌中学校 他

内容 教科部会

各教科で研究討議や現地研修会

(4) 市中学校総合研究会並びに第2回部会

日時 11月2日（金）13:50～16:30

会場 丸亀市立飯山中学校

研究主題

「学ぶ意欲と確かな学力を育てる指導のあ
り方」

～ユニバーサルデザインの視点を取り入れ
た授業づくり～

内容 教科の研究主題に基づく公開授業

研究討議

(5) 第3回部会

日時 12月6日（水）13:40～16:30

会場 丸亀市立南中学校

内容 本年度のまとめと来年度の計画

(6) 丸中研編集委員会

日時 1月5日（火）14:00～16:00

会場 丸亀市立綾歌中学校

内容 研究内容のまとめと編集

3 研究成果の刊行

「研究紀要第49号」全員に配布

本年度の研究経過、内容、討議等のまとめ

坂出・綾歌支部

1 研究主題

「教職員一人一人の資質能力と意欲の向上を図り、学校力を高める研究会活動」
一確かな学力の定着と豊かな心の育成をめざして—

2 主な研究活動

(1) 坂出・綾歌支部総会、教科、教科外研修会

期日 4月17日(月)
会場 綾川町立綾南中学校
内容 研究主題、研究計画、研究組織等の決定
教科部会 (11部会)
教科外部会 (15部会)

(2) 教科研修会

期日 6月6日(火)市・郡内各中学校
10月5日(木)市・郡内各中学校
内容 部会ごとに研究授業、提案発表及び情報交換等
期日 11月9日(木)白峰中学校
内容 香中研国語部会研究大会
期日 11月9日(木)綾南中学校
内容 香中研数学部会研究大会

(3) 教科外研修会

期日 6月13日(火)市・郡内各中学校
7月28日(金)市・郡内各中学校
11月1日(水)市・郡内各中学校
内容 部会ごとに研究授業、提案発表及び情報交換等

(4) 運営研修会

第1回 4月5日(水)東部中学校
研究方針及び事業計画の作成
第2回 1月26日(金)綾南中学校
本年度の反省と次年度の計画及び研究日程案の検討

3 研究成果の刊行

「研究と実践 第53号」を会員に配布

小豆支部

1 研究主題

「教職員一人一人の資質能力と意欲の向上を図り、学校の教育力を高める研究会活動」

2 主な研究会・行事

(1) 小豆支部総会・部会研修会

日時 4月28日(金)13:45~16:30
会場 土庄町立土庄中学校
内容 総会 (全体会)
教科部会 (10部会)
教科外部会 (12部会)
研究組織・研究主題・研修計画等の決定

(2) 教科研修会

① 第1回(統一日)
日時 6月14日(水)
会場 郡内各中学校
内容 研究授業・研究協議等
② 第2回
日時 さみだれ方式
会場 郡内各中学校
内容 テーマに基づく研究・研究授業・研究協議等

(3) 教科外研修会

① 第1回(・第2回)
日時 さみだれ方式
(各部会 年間1~2回)
会場 郡内各中学校 他
内容 テーマに基づく研究・研究授業・研究協議等

3 研究成果の刊行

「研究と実践」第57号を全員に配付
入手先：小豆支部事務局(小豆島中学校)

さぬき・東かがわ支部

1 研究主題

「教職員一人一人の資質能力と意欲の向上を図り、学校の教育力を高める研究会活動」

2 主な研究活動

(1) さぬき・東かがわ支部全体会

期日 4月28日(金)

会場 さぬき市立志度中学校

内容 研究主題、研究計画、組織等の決定

(2) 教科研究会

期日 6月1日(木)、9月21日(木)

会場 さぬき・東かがわ市内各中学校等

内容 研究授業、研究発表、研究討議等

(3) 教科外研究会

期日 7月28日(金)、10月12日(木)

会場 さぬき・東かがわ市内各中学校等

内容 研究授業、研究発表、研究討議、講話、実技研修、情報交換、現地研修等

(4) さぬき・東かがわ中学校教育総合研究大会

期日 10月24日(火)

会場 東かがわ市立大川中学校

主題 「主体的・協働的に学ぶ生徒の育成」
～効果的な学び合い工夫～

内容 全体提案、研究授業、研究討議等

(5) 教科・教科外部長研修会

期日 ① 4月28日(金)

② 1月19日(金)

会場 ① さぬき市立志度中学校

② 東かがわ市立大川中学校

内容 ① 本年度のさぬき・東かがわ支部の研究会の在り方及び方向付け

② 本年度の反省と次年度の計画等

3 研究成果の刊行活動

「研究紀要」を全会員に配布(2月)

仲多度・善通寺支部

1 研究主題

「教職員一人一人の資質能力と意欲の向上を図り、学校の教育力を高める研究会活動」
—授業力向上のための指導と評価の充実—

2 主な研究活動

(1) 仲・善支部総会

日時 5月1日(月)14:00~16:30

会場 善通寺市立西中学校

内容 研究主題・研究組織・研究計画の決定

(2) 教科等研究会

日時 6月16日(金)14:00~16:30

会場 郡市内各会場校

内容 研究授業の実施と研究協議

(3) 教科・教科外研究会

日時 7月28日(金)8:20~12:20

会場 まんのう町立満濃中学校

内容 研究協議・実践発表・情報交換

(4) 教科等研究会

日時 8月18日(金)8:40~12:00

会場 善通寺市総合会館

内容 小・中教科等研究員の研修会

(5) 教科等研究会

日時 10月20日(金)14:00~16:30

会場 郡市内各会場校

内容 教科研究員による研究授業・研究協議

(6) 学校事務部会

日時 5月26日(金)13:30~16:30

8月21日(月)8:30~16:30

11月10日(金)13:30~16:30

1月19日(金)13:30~16:30

会場 琴平町総合センター他

内容 研究主題・研究組織・研究計画の決定
事例発表・グループ研究・講演等

3 研究成果の刊行

各教科・教科外部会の実践を「研究紀要」
第57号にまとめ、全会員に配布

三豊・観音寺支部

1 研究主題

「豊かな学びを求め、主体的・創造的に生きる生徒の育成をめざした中学校教育の実践」
—教職員の資質能力と意欲の向上をめざす、各部会の創意ある実践的研究—

2 主な研究活動

(1) 三観地区中学校教科・教科外全体研修会

- ①日時 5月1日(月) 14:00~16:30
- ②会場 三豊市豊中町農村環境改善センター
三豊市市民交流センター 他
- 全体会：昨年度の事業・会計報告
：本年度の活動・会計計画説明
- 教科・教科外部会
：研究主題の決定、研究組織づくり
研究計画の作成

(2) 三観中研教科一斉研修会 (A群)

- ①日時 11月17日(金) 13:30~16:30
- ②部会名、会場、研究主題
 - 【国語部会】 中部中学校
 - 【数学部会】 和光中学校
 - 【社会科部会】 三野津中学校
 - 【理科部会】 豊浜中学校
 - 【英語部会】 仁尾中学校
 - 【技家部会】 豊中中学校
 - 【美術部会】 大野原中学校
 - 【保体部会】 観音寺中学校
- 【音楽部会】 中四大会と兼ねた。
10月27日(金) 13:30~16:30
豊中中学校・中部中学校

(3) 教科等各部夏季研修会

- 日時 7月28日(金)

(4) 各部理事・主任研修会

- 理事・主任研修会 年間3回実施
 - ・第1回は全体研修会と兼ねた。
 - ・第2回は2学期にさみだれ式で行った。
 - ・第3回は1月に教科部会を一斉に行った。

3 研究成果の刊行

「三観の教育」第47集 会員に配布(3月)

国語教育研究部会

1 役員・理事会

年間5回開催、研究組織及び内容の検討等

2 夏季研修会

期日 7月31日(月)
場所 県社会福祉総合センター
内容 講演、研究発表、ワークショップ

3 研究大会

期日 11月9日(木)
場所 坂出市立白峰中学校
内容 全体提案、公開授業、領域別分科会

4 委託研究部会

年間4回開催、「さぬきの授業基礎・基本」のあり方の検討とまとめ

4 若年研修部会

附属高松中、坂出市立白峰中での授業研究会等、4回の研修

5 機関誌「国語科教育」の刊行

6 ホームページ

Googleとyahooで「香川県中学校国語教育研究会」を検索

<http://sites.google.com/site/kagawakokugo>

社会科教育研究部会

1 役員会、評議員会

年間5回開催、研究組織及び内容の検討等

2 夏季研修会

- (1) 日時 平成29年7月31日(月)
- (2) 場所 パールガーデン高松
- (3) 内容・講話
 - 県立ミュージアム
専門学芸員 御厨義道 様
 - 国土地理院
専門職 木村佳織 様
 - ・実践交流会
 - ・ワークショップ
 - ・講演
香川大学教育学部
准教授 鈴木正行 先生

3 若年教員授業力向上研修

- (1) 日時 平成29年10月24日(火)
平成29年11月21日(火)
 - (2) 場所 東かがわ市立大川中学校
附属坂出中学校
 - (3) 内容・研究授業及び研究討議
- ### 4 第14回香川県小・中学校総合文化祭 社会科研究発表会

- (1) 日時 平成29年11月18日(土)
- (2) 場所 レクザムホール
- (3) 内容 各地区代表生徒による研究発表
- (4) 指導者 香川県教育委員会事務局義務教育課
主任指導主事 北堀 宏 先生
香川大学教育学部 教授 新見 治 先生

5 秋季研修会

- (1) 日時 平成29年11月9日(木)
- (2) 場所 附属高松中学校
- (3) 内容・分野別研究報告
 - ・講演
広島大学 大学院教育学研究科
社会認識教育学講座
教授 草原 和博 先生

6 研究成果の刊行

- (1) 「社会科研究」第58号
- (2) 「生徒の社会科研究」第55号

数学教育研究部会

- 1 総会
6月4日(日) 附属高松中学校
・前年度事業報告、決算報告、事業計画等
- 2 中高連絡会
7月6日(木) 善通寺第一高等学校
・高等学校教員による授業等
- 3 夏季研修会
7月31日(月) サンメッセ香川
・研究発表及び講演等
- 4 数学部会研究大会
11月9日(木) 綾南中学校
- 5 理事・代議員会及び研究委員会
7月31日(月) サンメッセ香川
2月24日(土) 附属高松中学校
- 6 「数学教育評論」第14巻3号の行刊

理科教育研究部会

- 1 役員・評議員・理事研修会
〔第1回〕平成29年5月13日(土)
○ 事業・会計計画、役員改選 等
〔第2回〕平成29年12月9日(土)
○ 事業・会計中間報告、大会の反省 等
〔第3回〕平成30年2月17日(土)
○ 各郡市研究成果の発表 等
- 2 夏季研修会
期日 平成29年7月31日(月)
場所 サンポート高松及びシンボルタワー
内容 講演、全体提案 分科会発表
- 3 香中理丸亀大会
期日 平成29年11月6日(木)
場所 丸亀市立飯山中学校
丸亀市立綾歌中学校
- 4 第69回香川県中学校生徒科学体験発表会
期日 平成29年11月4日(土)
場所 高松テルサ
最優秀
第1分野 高松市立一宮中学校
第2分野 香川大学教育学部附属坂出中学校
- 5 若年研修
第1回
期日 平成29年9月4日(月)
場所 香川大学教育学部附属坂出中学校
第2回
期日 平成29年10月4日(水)
場所 さぬき市立長尾中学校
- 6 機関誌「理科教育—中学校—」の刊行

音楽教育研究部会

- 1 企画会
〔第1回〕平成29年4月21日(金)
〔第2回〕平成29年11月30日(木)
- 2 理事会
〔第1回〕平成29年4月29日(土)
〔第2回〕平成29年12月9日(土)
- 3 研究部会
〔第1回〕平成29年6月7日(水)
〔第2回〕平成29年6月16日(金)
〔第3回〕平成29年8月21日(月)
〔第4回〕平成30年2月25日(日)
- 4 夏季研修会
期日 平成29年8月21日(月)
場所 観音寺市立中部中学校
内容 「新学習指導要領の改定のポイント」
講師 東京音楽大学専任講師 和田 崇先生
- 5 音楽部会研究発表会
(第48回中国・四国音楽教育研究大会 香川大会)
期日 平成29年10月27日(金)
場所 観音寺市立中部中学校、三豊市立豊中
中学校
観音寺市民会館(ハイスタッフホール)
- 6 研究成果刊行 機関誌「香川音楽54号」

美術教育研究部会

- 1 役員・評議員 研究主任会合
〔第1回〕5月20日(土)
平成28年度事業報告、平成29年度事業計画、
予算案決議、研修会に向けて協議
〔第2回〕1月27日(土)
平成29年度実践報告、平成30年度事業構想
- 2 夏季研修会 7月31日(月)
会場 香川大学教育学部附属高松中学校
内容 講話・実技研修「使いやすいデザイン」
- 3 研究大会 11月9日(木)
会場 高松市立香東中学校
内容 研究授業・研究提案・授業討議
- 4 総合文化祭展覧会 12月21日(木)～
12月24日(日) 作品審査・展示
- 5 研究成果の刊行「美術教室第54号」
授業実践の報告、特色ある取組の報告、各支
部研究報告

保健体育教育研究部会

1 役員会

- (1) 4月27日(木) 高松国際ホテル
- (2) 2月27日(火) 高松市総合教育センター

2 地区研究研修会

- (1) 第1回 6月4日(日) 玉藻中
部会組織・研究計画と夏季研修会の計画
- (2) 第2回 7月31日(金) 玉藻中
夏季研修会の運営、研究大会要項検討
- (3) 第3回 9月3日(日) 玉藻中
研究大会要項検討、運営計画検討
- (4) 第4回 1月7日(日) 玉藻中
各支部研究報告及び今年度の反省
次年度計画

3 夏季研修会

7月31日(月) 講話・演習

「主体的・対話的で深い学びの実現を目指して」
保健体育課主任指導主事より指示・伝達

4 研究物の刊行

「県中保体だより」第58号

技術・家庭科教育研究部会

1 役員・理事研修会

〔第1回〕平成29年5月7日(日)

- 平成29年度事業計画、予算案

〔第2回〕平成29年10月15日(日)

- 事業状況確認、研究内容検討

〔第3回〕平成30年3月4日(日)

- 本年度のまとめと次年度計画

2 夏季研修会

期日 7月31日(月)

場所 高松テルサ

内容 研究大会に向けての提案・指導など

3 研修会

期日 11月9日(木) 他3日間

場所 高松市立勝賀中学校 他3中学校

内容 研究大会に向けての研究授業など

4 技能競技大会

期日 7月30日(日)

場所 サンポート高松 展示場

5 創造アイデアロボットコンテスト

期日 11月5日(日)

場所 サンポート高松 展示場

6 研究成果刊行

・機関誌「技術・家庭科教育」第58号

英語教育研究部会

1 理事会

(1) 期日

第1回 5月14日(日)

第2回 6月24日(土)

第3回 12月2日(土)

第4回 2月10日(土)

(2) 会場 高松シティホテル

2 春季大会

(1) 期日 6月16日(金)

(2) 会場 香川県立高松北中学校
香川県立高松北高等学校

3 夏季研修会

(1) 期日 7月31日(月)

(2) 会場 丸亀市綾歌総合文化会館
アイレックス

4 第67回香川県中学校英語弁論大会

(1) 期日 10月7日(土)

(2) 会場 読売新聞社高松総局ホール

5 香川県中学校教育研究会英語部会研究大会

(1) 期日 11月9日(木)

(2) 会場 善通寺市立西中学校
善通寺市立東中学校

6 機関誌「中英香川54号」発行

養護研究部会

1 役員・代議員・研究部員研修会

(1) 平成29年5月19日(金) 香川県教育会館

① 平成29年度事業計画案・予算案審議

② 夏季研修会、研究大会について

(2) 平成30年2月2日(金) 香川県教育会館

① 平成29年度事業報告・会計報告

② 平成29年度研究のまとめと次年度構想

2 夏季研修会

(1) 日時 7月31日(月) 9:00~12:00

(2) 場所 三豊市市民交流センター

(3) 内容

○講話「中学校における保健指導の進め方」
県教委保健体育課 棚田美佳指導主事

○ワールドカフェ 藤澤 茜先生

3 研究大会

(1) 日時 11月9日(木) 13:30~16:25

(2) 場所 丸亀市綾歌総合文化会館(アイレックス)

(3) 内容 研究発表、研究討議、講評

4 研究成果刊行

「研究紀要38号」

道徳教育研究部会

- 1 評議員・理事・研究委員会
5月13日(土)
○研究組織づくり、夏季研修会・研究大会の持ち方
2月17日(土)
○今年度の反省と平成30年度の研究について
- 2 研究部研修会
6月3日(土) 11月18日(土)
○郷土資料の編集・指導案作成等
- 3 編集部研修会
8月5日(土) 9月2日(土)
○「道徳教育第42号」の編集～校正
- 4 夏季研修会
日時：8月18日(金)
会場：マリンパレスさぬき
内容：全体会 県の基調提案 課題別分科会
- 5 研究成果刊行
「道徳教育第42号」

特別活動研究部会

- 1 役員・理事研修会
(1) 期日 平成29年6月15日(木)
(2) 場所 さぬき南中学校
- 2 夏季研修会
(1) 期日 平成29年8月18日(金)
(2) 場所 高松テルサ
(3) 内容
① 各支部の実践発表
課題 「なかまと協働し、主体的に行動できる生徒の育成」～話し合い活動を軸として～
② 講演
講師 香川県教育委員会事務局義務教育課主任指導主事 長町 裕子氏
内容 「各郡市の取組への指導・助言と特別活動における国の方向性」
- 3 研究成果刊行
研究集録「特別活動」第42号

生徒指導研究部会

- 1 役員研修会
〔第1回〕平成29年5月23日(火)
○事業・会計報告、事業計画、役員改選事業案・予算案・各支部情報交換 等
〔第2回〕平成29年11月10日(金)
○事業報告と反省
次年度の研究について・情報交換 等
- 2 夏季研修会
期日 平成29年8月18日(金)
場所 高松テルサ
内容 専門分野からの講演による研修
① 「事例から学ぶ非行へのアプローチ
～学校と関係機関の連携を考える～」
香川県教職員相談室メンタルヘルス相談員 廣田 邦義 氏
② 「チームで取り組む生徒指導」
～発達障害が背景にある場合～
香川大学教育学部 准教授 山本 木ノ実 氏

メディア教育研究部会

- 1 評議員・理事研修会
〔第1回〕平成28年6月29日(木)
○事業計画・会計報告、役員改選
〔第2回〕平成30年2月2日(金)
○事業・会計報告、次年度研究方針 等
- 2 夏季研修会
(1) 期日 平成29年8月18日(金)
(2) 場所 情報通信交流館e-とぴあ・かがわ
(3) 内容
① 全体会：講話
・「デジタル時代の学校教育とメディアを考える～新しい可能性を子どもたちの成長にどう生かすか～」
NHK放送文化研究所メディア研究部 宇治橋 祐之 氏
② 分科会：実習
・Windows10実習
・メディアリテラシー講話 若年層に人気のアプリとトラブル
- 3 研究成果(Web掲載)
URL <http://www.kagawa-edu.jp/kachuj01>

人権・同和教育研究部会

1 部会総会

日時 5月9日(火)
会場 サンポートホール高松
内容 事業報告、事業計画、役員改選
四人研・全人教大会報告内容の検討

2 部会研修会

[第1回] 日時 4月11日(火)
内容 事業計画
[第2回] 日時 9月15日(金)
内容 香同教大会の業務、研究紀要
[第3回] 日時 2月27日(火)
内容 反省、次年度の計画

3 夏季研修会

日時 8月18日(金)
会場 サンポートホール高松
内容 香同教大会報告内容の検討
指導助言

4 人権・同和教育研究紀要の刊行

学校保健研究部会

1 役員・理事研修会

(1) 第1回
日時 平成29年6月6日(火)
場所 香川県教育センター3階第3会議室
内容 平成28年度 事業報告・会計報告
平成29年度 事業計画・予算審議
平成29年度 研究テーマについて

(2) 第2回
日時 平成30年2月8日(木)
場所 香川県教育センター3階第2研修室
内容 各支部研究報告、研究収録について

2 夏季研修会

日時 平成29年8月18日(金) 9:00~12:00
場所 四国コカ・コーラスタジアム
(会議室および室内練習場)
内容 講話「学校保健の現状と課題」
実習「応急処置・応急手当の実践」

3 研究成果刊行

平成29年度 研究集録

学校図書館研究部会

1 学校図書館部会研修会

[第1回]
期日 平成29年5月18日(木)
場所 香川県教育センター
内容 事業・会計報告及び事業計画、役員改選

[第2回]
期日 平成29年10月24日(火)
場所 香川県教育センター
内容 読書感想文の審査

2 夏季研修会

期日 平成29年8月18日(金)
場所 香川県立文書館
内容 四国大会に向けて実践報告・質疑応答
講演及びワークショップ
(四国学院大学 田中絃一先生による指導 ビブリオバトルについて)

3 研究成果刊行

香川県読書感想文集63号

特別支援教育研究部会

1 役員・評議員・理事研修会

[第1回] 平成29年6月8日(木)
○ 事業・予算計画、役員改選、夏季研計画
[第2回] 平成29年2月24日(土)
○ 事業・会計報告、研究成果刊行物配布
○ 次年度の事業・予算計画

2 夏季研修会

期日 平成29年8月18日(金)
場所 観音寺市立中部中学校他
内容
<小中合同全体会>
小学校&中学校実践発表
講演 「特別な支援が必要な児童生徒への合理的な配慮をどう考えるのか?」
講師 香川大学教授 坂井 聡

<中学校分科会>
課題別提案発表(4テーマで開催)

3 研究成果「研究紀要」の刊行

へき地教育研究部会

- 1 へき地教育研修総会
期日 平成29年5月9日(火)
場所 銀星旅館
- 2 へき地校長研修会・へき地教育研修会
(1) 第1回
期日 平成29年6月9日(金)
内容 研究紀要編集計画、原稿依頼
(研修講座に向けて)
- (2) 第2回
期日 平成29年9月15日(金)
内容 研究紀要作成
- (3) 第3回
期日 平成29年12月5日(火)
内容 研究紀要校正
- 3 県へき地教育研修講座
期日 平成29年7月27日(木)
場所 高松市生涯学習センターまなびCAN
内容 講演:「豊島の良さを伝えたい」
講師:伊井 一雅 様
(元全国へき地教育研究連盟会長)
分科会 小学校発表 池田小学校
「ふるさと池田を愛し、心豊かで、
たくましく生きる子どもの育成—
確かな学力と豊かな心を身につ
けた子どもの育成をめざして—」
中学校発表 直島中学校
「自立・共生—自他を尊重する
精神を高める—」
- 4 研究成果刊行
「香川のへき地教育」発行

学校事務研究部会

- 1 学校事務研修会
期日 平成29年5月19日(金)
場所 高松テルサ
内容 事業報告・会計報告・役員組織決定
事業計画・予算案審議
各支部等研修計画
 - 2 夏季研修会
期日 平成29年8月21日(月)
場所 観音寺市民会館(ハイスタッフホール)
内容 『未来につなぐ ひろがる学校事務』
(1) 講演 「次世代の学校づくりを具現化する学
校マネジメントと業務改善の在り方」
鳴門教育大学教職大学院教授
久我直人氏
 - (2) 仲善・三観支部中間発表
仲善支部 「楽になろうよ～業務の効率化・
改善から～」
三観支部 「チーム力を生かした新たな学
校事務の実現をめざして」
- 学校事務部会HP
<http://www.kagawa-edu.jp/kasckj01/htdocs/>

進路指導研究部会

- 1 役員・理事研修会
【第1回】
(1) 期日 平成29年6月9日(金)
(2) 内容
① 平成28年度事業報告・会計決算報告
② 平成29年度役員改選
③ 平成29年度事業計画及び予算案審議
- 【第2回】
(1) 期日 平成29年11月21日(金)
(2) 内容
① 平成29年度研究実践のまとめ
② 平成30年度の研究の方向について
- 2 夏季研修会
(1) 期日 平成29年8月18日(金)
(2) 場所 高松テルサ
(3) 内容 2支部の実践発表及び指導・講話

学校給食研究部会

- 1 役員・理事研修会
(1) 第1回 平成29年6月15日(木)
内容 研究主題・夏季研修会等について
- (2) 第2回 平成30年2月1日(木)
内容 各支部活動状況・次年度の計画
- 2 夏季研修会
日時 平成29年8月18日(金)
場所 高松市国分寺会館
内容
講演 「新しい味覚教育の取り組みについて
—五感を通して—」
香川大学 教育学部
教授 山神 眞一 先生
実践発表(仲多度・善通寺、丸亀)
- 3 研究成果刊行
研究紀要発行

「『主体的・対話的で深い学び』の視点からの授業づくり」実践事例について

研究部委託研究班

1 これまでの経緯

香川県教育委員会が『さぬきの授業 基礎・基本』を発行した平成25年3月以降、本委託事業は、その具現化に向けた取り組みを重ねて来た。

平成25年度は『さぬきの授業』の第I章の内容について、平成26年度はその第II章部分についてそれらを「実践事例集」としてまとめた。

平成27年度及び28年度は、「子どもをその気にさせる教材・教具の工夫」に着目し、「導入」「展開」「終末」のそれぞれにおける実践を「実践事例集」としてまとめた。

2 本年度の研究委託について

(1) 委託する部会及び実践数

各教科部会 合計9部会 各9実践

(2) 委託内容

① 研究テーマ

各教科等で子どもに身に付けさせたい力を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業づくり

3月に公示された新学習指導要領の趣旨を踏まえ、単元等で身に付けさせたい力を明確にした上で、子供たちの学びの質に着目して授業改善の工夫を行っていくこととする。

② 取組の視点

実践事例は「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の三つの視点ごとに整理し、各視点におけるQ&Aを見出しとする。○主体的な学び

興味や関心 キャリア形成の方向性 見通し

○対話的な学び

子ども間の協働 教職員との対話 先哲の考え

○深い学び

習得・活用・探究 情報を精査 解決策

もちろん、これ以外のキーワードでもよい。

③ 取組のポイント

特に若い教師を念頭に置き、どのような授業の工夫・改善が求められているのかを、授業場面を通して具体的に示す必要がある。

(3) 実際の活動

① 6月27日 第1回委託研究班研修会

・義務教育課より説明・依頼

・書式等の確認

② 9月8日 第2回委託研究班研修会

・原稿検討、内容・書式等の確認

③ 10月24日 第3回委託研究班研修会

・原稿最終検討、本年度反省点の確認

3 次年度に向けて

生徒が本気で学びたいと思える授業はどんな授業ですか？

A 「やってみよう」と思わせるような工夫をしましょう。

【本時の学習】
 <学習前の生徒の姿>
 話の筋で英語を聴きだす。話したりするのは嫌だな。失敗したらこわいな。

【本時の学び】
 <学習後の生徒の感想>
 音読に聴きより、タブレットで練習しながらやると自分では気がつかなかった点や、ジェスチャーの練習ができた。本番では緊張したが、自段通りに発表できた。英語講師を通して、英語を身近に感じられた。またやってみようと思った。

【授業のワークシート】
 Good Points: ...
 Improvements: ...

【教員】 友達からもらったアドバイスをもとに、夏休みに練習に取り組み、その成果を全体の前で発表した。

書式の制約がかなり厳しく、できあがりを心配したが、上の例のように、たいへん分かりやすく見やすい内容となった。次年度も内容を絞り込んでさらに分かりやすいものとしていきたい。

平成29年度若年教員授業力向上研修の開催について

1 目的

本県では現在、教員の約40%が退職するという過渡期にあり、若年教員の増加とともに、これまでの授業力の維持が大きな課題の一つとなっている。一方で、県教育センターでは、若年教員研修として、初任者研修、教職1年経験者研修、教職5年経験者研修を実施しているが、教職2～4年経験者を対象とする研修は実施していない。

そこで、初任者研修、教職1年経験者研修で基礎・基本を研修した教員が、以後の3年間で自己研修を積み重ね、授業力の向上を図ることを支援するため、香川県中学校教育研究会、香川大学教育学部（附属中学校）と連携して教科指導に係る若年研修（希望研修）を実施し、授業力の向上を中心とした資質能力の向上を図る。

2 対象

- (1) 教職2年～4年経験の中学校教員
- (2) 受講を希望する教員

3 内容

- (1) 授業説明・研究授業・授業討議・課題の共有等とする。
- (2) 年2回実施する。
1回を香川大学教育学部附属中学校で、もう1回を公立中学校で実施する。
- (3) 詳細は、各教科部会において「若年研修実施計画」を作成する。

4 実施報告

	国語	社会	数学	理科	音楽
対象者数	31	34	29	36	8
開催①	29.10.26	29.10.24	29.9.2	29.9.4	29.10.5
会場	白峰中	大川中	三野津中	附坂中	白峰中
参加者数	対象者				
	27	14	13	9	3
	対象者外				
	2	20	8	1	0
開催②	29.12.7	29.11.21	29.11.21	29.10.4	29.11.6
会場	附高中	附坂中	附坂中	長尾中	附坂中
参加者数	対象者				
	23	19	12	17	6
	対象者外				
	5	0	9	3	1
	美術	保・体	技・家 (技)	技・家 (家)	英語
対象者数	2	29	1	4	32
開催①	29.9.20	29.11.2	29.9.14	29.9.19	29.10.12
会場	附坂中	飯山中	志度中	附坂中	附高中
参加者数	対象者				
	1	8	1	3	19
	対象者外				
	0	1	4	3	1
開催②	29.10.20	29.11.6	29.11.22	29.10.24	29.11.22
会場	琴平中	附坂中	附坂中	琴平中	宇多津中
参加者数	対象者				
	1	8	0	2	13
	対象者外				
	0	1	4	6	2

V 組織等

本 部 役 員

役員名	氏名	勤務校	職名	郵便番号	学 校 所 在 地	電話番号	備 考
会長	山下 昌宏	高松市立古高松中学校	校長	761-0102	高松市新田町甲190番地1	(087) 841-1577	
副会長	江口 俊史	さぬき市立志度中学校	校長	769-2101	さぬき市志度2214番地4	(087) 894-0148	
副会長	新名 勝	琴平町立琴平中学校	校長	766-0003	仲多度郡琴平町五條661番地	(0877) 73-4181	
副会長	漆川 武	三豊市立和光中学校	校長	769-0401	三豊市財田町財田上2790番地	(0875) 67-2012	
事務局 局長	橋本 征治	さぬき市立長尾中学校	校長	769-2301	さぬき市長尾東954番地	(0879) 52-3182	
事務局 次長	富田 明	さぬき市立長尾中学校	教頭	769-2301	さぬき市長尾東954番地	(0879) 52-3182	
研究部 部長	木谷 直充	丸亀市立綾歌中学校	校長	761-2406	丸亀市綾歌町栗熊東431番地	(0877) 86-2006	
研究部 次長	小林 理昭	香川大学教育学部附属坂出中学校	副校長	762-0037	坂出市青葉町1番7号	(0877) 46-2695	
研究部 次長	赤熊 俊二	香川大学教育学部附属高松中学校	副校長	761-8082	高松市鹿角町394番地	(087) 886-2121	
監 査	八村 匡純	高松市立下笠居中学校	校長	761-8002	高松市生島町372番地1	(087) 881-2621	
監 査	松野美香代	綾川町立綾上中学校	校長	761-2203	綾歌郡綾川町山田上甲1180番地	(087) 878-2020	

支 部 役 員

No	支部	支 部 長	勤務校	〒	学 校 所 在 地	電話番号	事務局長	勤務校	〒	学 校 所 在 地	電話番号	会計長	勤務校	〒	学 校 所 在 地	電話番号
1	高松	八村 匡純	下笠居	761-8002	高生島町372-1	(087) 881-2621	増田 聖	国分寺	761-0101	高国分寺町新居	(087) 874-0031	小野坂寧晃	国分寺	761-0101	高国分寺町新居	(087) 874-0031
2	丸亀	木谷 直充	綾歌	761-2406	綾歌町栗熊東431	(0877) 86-2006	大塚 浩二	綾歌	761-2406	丸綾歌町栗熊東431	(0877) 86-2006	本郷 佳子	綾歌	761-2406	丸綾歌町栗熊東431	(0877) 86-2006
3	坂出・綾	松野美香代	綾上	761-2203	綾川町山田上甲1180	(087) 878-2020	遠藤 克己	綾南	761-2103	綾川町陶5593-1	(087) 876-1187	遠藤 克己	綾南	761-2103	綾川町陶5593-1	(087) 876-1187
4	小豆	岡下 朋平	豊島	761-4661	小土庄町豊島家浦810	(0879) 68-2020	龍田 善之	小豆島	761-4106	小豆島町片城甲44-1	(0879) 82-2136	龍田 善之	小豆島	761-4106	小豆島町片城甲44-1	(0879) 82-2136
5	さぬき・東かがわ	江口 俊史	志度	769-2101	さ志度2214-4	(087) 894-0148	水口 美	大川	769-2604	東西村1510	(0879) 25-2175	大路 仁	引田	769-2901	東引田545-1	(0879) 33-3101
6	仲多度・善通寺	新名 勝	琴平	766-0003	仲琴平町五條661	(0877) 73-4181	六車 整司	琴平	766-0003	仲琴平町五條661	(0877) 73-4181	六車 整司	琴平	766-0003	仲琴平町五條661	(0877) 73-4181
7	三豊・観音寺	漆川 武	和光	769-0401	三財田町財田上2790	(0875) 67-2012	大谷 幸弘	大野原	769-1612	大野原町中姫1189-3	(0875) 54-3100	佐藤 理香	和光	769-0401	三財田町財田上2790	(0875) 67-2012

部 会 役 員

No	部 会	部会長	勤務校	〒	学 校 所 在 地	電話番号	事務局長	勤務校	〒	学 校 所 在 地	電話番号	会計長	勤務校	〒	学 校 所 在 地	電話番号
1	国 語	山下 昌宏	古高松	761-0102	高 新田町甲 190-1	(087) 841-1577	大西小百合	附坂出	762-0037	坂 青葉町1-7	(0877) 46-2695	一田 幸子	附高松	761-8082	高 鹿角町394	(087) 886-2121
2	社 会	八村 匡純	下笠居	761-8002	高 生島町372-1	(087) 881-2621	山城 貴彦	附坂出	762-0037	坂 青葉町1-7	(0877) 46-2695	大和田 俊	附坂出	762-0037	坂 青葉町1-7	(0877) 46-2695
3	数 学	篠原 好宏	満	766-0022	仲 まんのう町 吉野下957	(0877) 73-2107	太田 隆志	附高松	761-8082	高 鹿角町394	(087) 886-2121	山野 景子	飯 山	762-0082	丸 飯山町川原 1110	(087) 98-2027
4	理 科	下川 恭徳	一 宮	761-8084	高 一宮町1185-1	(087) 885-1664	鷺辺 章宏	附坂出	762-0037	坂 青葉町1-7	(0877) 46-2695	根津 克浩	勝 賀	761-8014	高 香西南町565	(087) 881-3141
5	音 楽	白井 隆	男 木	760-0091	高 男木町165	(087) 873-0506	堀田 真央	附坂出	762-0037	坂 青葉町1-7	(0877) 46-2695	石原 美帆	善 東	765-0014	善 生野本町 2-14-1	(0877) 62-2360
6	美 術	沼野 伸二	善 西	765-0013	善 文京町4-1-1	(0877) 62-2340	田尾 亜貴	附坂出	762-0037	坂 青葉町1-7	(0877) 46-2695	池内 直樹	香川一	761-1703	高 香川町浅野 1188	(087) 867-5937
7	保健体育	行成 聡	宇多津	769-0210	綾 宇多津町3302	(0877) 49-0818	増田 一仁	附高松	761-8082	高 鹿角町394	(087) 886-2121	倉山 佳子	附高松	761-8082	高 鹿角町394	(087) 886-2121
8	技 術	國木 良輝	白 峰	762-0012	坂 林田町181	(0877) 47-0211	渡邊 広規	附坂出	762-0037	坂 青葉町1-7	(0877) 46-2695	池下 香	附坂出	762-0037	坂 青葉町1-7	(0877) 46-2695
9	英 語	香川浩一郎	詫 間	769-1101	三 詫間町詫間 5796-1	(0875) 83-2108	伊賀 梨恵	附坂出	762-0037	坂 青葉町1-7	(0877) 46-2695	明田 典浩	附坂出	762-0037	坂 青葉町1-7	(0877) 46-2695
10	養 護	大谷 幸弘	大野原	769-1612	観 大野原町中姫 1189-3	(0875) 54-3100	秋山 雄子	観音寺	768-0061	観 八幡町2-10-7	(0875) 25-2440	高橋貴美子	高 瀬	767-0011	三 高瀬町下勝間 2725-1	(0875) 72-3161
11	道 徳	大原 一仁	三 豊	768-0101	三 山本町辻876	(0875) 63-3028	石田 卓司	高松北	761-0121	高 牟礼町牟礼 1583-1	(087) 845-2155	茂中 則子	一 宮	761-8084	高 一宮町1185-1	(087) 885-1664
12	特別活動	細川 昌宏	さ 南	761-0901	さ 大川町富田西 2823-1	(0879) 43-4304	有岡 景子	白 鳥	769-2705	東 白鳥757-2	(0879) 25-1365	横尾 昌彦	さ 南	761-0901	さ 大川町富田西 2823-1	(0879) 43-4304
13	生徒指導	半山 章人	坂東部	762-0003	坂 久米町2-7-46	(0877) 46-2159	中川 章	綾 南	761-2103	綾 綾川町陶 5593-1	(087) 876-1187	高田 和典	綾 上	761-2203	綾 綾川町山田上 甲1180	(087) 878-2020
14	メデイア教育	木谷 直充	綾 歌	761-2406	丸 綾歌町栗熊東 431	(0877) 86-2006	政岡 克己	引 田	769-2901	東 引田545-1	(0879) 33-3101	藤原 悟	高 玉 藻	760-0077	高 上福岡町 714-1	(087) 861-8196
15	人権教育	石原 博	鶴 尾	761-8052	高 松並町639-1	(087) 867-3382	岩田 清	龍 雲	761-8077	高 出作町331-2	(087) 889-0131	久保 賢吾	協 和	761-0311	高 元山町88-2	(087) 867-5937
16	学 校 図 書 館	漆川 武	和 光	769-0401	三 財田町財田上 2790	(0875) 67-2012	白杵 和子	三野津	767-0032	三 三野町下高瀬 720	(0875) 72-5209	真島 淳子	観中部	768-0040	観 柞田町甲1237	(0875) 25-3622
17	学校保健	三木 信行	多度津	764-0014	仲 多度津町本通 2-11-55	(0877) 33-2271	未澤 和士	多度津	764-0014	仲 多度津町本通 2-11-55	(0877) 33-2271	藤原 文子	多度津	764-0014	仲 多度津町本通 2-11-55	(0877) 33-2271
18	特別支援教育	矢野 尊章	観中部	768-0040	観 柞田町甲1237	(0875) 25-3622	宇野 誓起	大野原	769-1612	観 大野原町中姫 1189-3	(0875) 54-3100	吉田 栄子	高 瀬	767-0011	三 高瀬町下勝間 2725-1	(0875) 72-3161
19	へ き 地	宮脇 史郎	樫 石	762-0073	坂 樫石585-17	(0877) 43-0204	高木 正史	伊 吹	768-0071	観 伊吹町549	(0875) 29-2102	寒川 義文	樫 石	762-0073	坂 樫石585-17	(0877) 43-0204
20	学校事務	大原 一仁	三 豊	768-0101	三 山本町辻876	(0875) 63-3028	藤川 幸子	和 光	769-0401	三 財田町財田上 2790	(0875) 67-2012	松下 祐美	善 東	765-0014	善 生野本町 2-14-1	(0877) 62-2360
21	進路指導	行成 聡	宇多津	769-0210	綾 宇多津町3302	(0877) 49-0818	岡野 隆伸	丸 南	763-0093	丸 郡家町3690	(0877) 25-0700	平田 憲司	綾 上	761-2203	綾 綾川町山田上 甲1180	(087) 878-2020
22	学校給食	安藤 孝泰	善 東	765-0014	善 生野本町 2-14-1	(0877) 62-2360	鈴木麻奈未	飯 山	762-0082	丸 飯山町川原 1110	(0877) 98-2027	氏家 智子	琴 平	766-0003	仲 琴平町五条 661	(0877) 73-4181

平成29年度 予算

4 部会配分金

1 会員数	2,121 人	
2 収入と支出		
【収入】		
会費	2,925円×2121人	6,203,925 円
助成金		100,000 円
繰越金		945,581 円
利息		192 円
合 計		7,249,698 円

【支出】		
各郡市支部	1,425円×2121人	3,022,425 円
各教科・教科外部会		1,040,000 円
研究大会補助金	35,000円×5+50,000円×5+80,000円×1	505,000 円
本部事務局費		2,682,273 円
合 計		7,249,698 円
※本部事務局費（予備費）		1,282,273 円

3 支部別会員数および配分金額

支部番号・支部名	平成28年度会員数	平成29年度会員数	配 分 金
1 高 松 支 部	924	930	1,325,250 円
2 丸 亀 支 部	238	241	343,425 円
3 坂 出・ 綾 歌 支 部	238	238	339,150 円
4 小 豆 支 部	72	73	104,025 円
5 さぬき・東かがわ支部	165	161	229,425 円
6 仲多度・普通寺支部	172	171	243,675 円
7 三豊・観音寺支部	296	307	437,475 円
合 計	2,105	2,121	3,022,425 円

・各支部への配分金は1,425円×会員数
 ・県大会については教科35,000円・教科外（養護含む）50,000円、四国以上の大会は80,000円の助成金とする。
 ・養護部会を含め研究大会がない教科外部会は36,000円の基礎配分、研究大会がある部会は144,000円の基礎配分とする。ただし、教科部会は従来通りで変更なし。
 ・事前研究費として養護部会及び教科外（道徳を除く）に50,000円を助成する。

部 会 名	基礎配分金	研究大会補助金				合計
		事前研究	県大会	四国大会	全国大会	
1 国 語	56,000		35,000			91,000
2 社 会	56,000					56,000
3 数 学	56,000		35,000			91,000
4 理 科	56,000		35,000			91,000
5 音 楽	40,000			80,000		120,000
6 美 術	40,000					40,000
7 保 健 体 育	56,000		35,000			91,000
8 技 術・ 家 庭	48,000					48,000
9 英 語	56,000		35,000			91,000
10 養 護	144,000		50,000			194,000
11 道 徳 教 育	36,000					36,000
12 特 別 活 動	36,000	50,000				86,000
13 生 徒 指 導	36,000	50,000				86,000
14 メディア教育	36,000	50,000				86,000
15 人権・同和教育	36,000	50,000				86,000
16 学 校 図 書 館	36,000					36,000
17 学 校 保 健	36,000					36,000
18 特別支援教育	36,000					36,000
19 へき地教育	36,000					36,000
20 学 校 事 務	36,000					36,000
21 進 路 指 導	36,000					36,000
22 学 校 給 食	36,000					36,000
部会配分金	1,040,000	200,000	225,000	80,000	0	1,545,000
支部配分金	3,022,425					3,022,425
本部事務局(旅費等)	1,400,000					1,400,000
本部事務局(予備費)	1,282,273					1,282,273
合 計	6,744,698	200,000	225,000	80,000	0	7,249,698

香 川 県 中 学 校 教 育 研 究 会 会 則

- (名 称) 本会は、香川県中学校教育研究会という。
- (事 務 所) 本会の事務所は、原則として会長が定める学校内におく。
- (目 的) 本会は、中学校教育に関する研究活動等を通じて香川県中学校教育の振興を図ることを目的とする。
- (組 織) 本会は県内中学校に勤務する教職員をもって組織し、下記の支部と部会をおく。
- | | | |
|------------|--------------|-------------|
| 高松支部 | 国語教育研究部会 | 道徳教育研究部会 |
| 丸亀支部 | 社会科教育研究部会 | 特別活動研究部会 |
| 坂出・綾歌支部 | 数学教育研究部会 | 生徒指導研究部会 |
| 小豆支部 | 理科教育研究部会 | メディア教育研究部会 |
| さぬき・東かがわ支部 | 音楽教育研究部会 | 人権・同和教育研究部会 |
| 仲多度・善通寺支部 | 美術教育研究部会 | 学校図書館研究部会 |
| 三豊・観音寺支部 | 保健体育教育研究部会 | 学校保健研究部会 |
| | 技術・家庭科教育研究部会 | 特別支援教育研究部会 |
| | 英語教育研究部会 | へき地教育研究部会 |
| | 養護研究部会 | 学校事務研究部会 |
| | | 進路指導研究部会 |
| | | 学校給食研究部会 |
- 第5条 支部・部会の運営については細則をもって定める。
- (事 業) 本会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。
- 2 各教科、道徳、特別活動、およびその他の中学校教育に関する研究活動の育成と振興
 - 3 教育に関する研究団体および関係機関との連絡提携
 - 4 研究会、講演会、講習会の開催
 - 5 その他必要な事業
- (役 員) 本会は、会長1名および副会長3名をおく。
- 2 会長は、本会を代表し、会務を掌理する。
 - 3 副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。
- 第8条 会長及び副会長は、運営委員会において選出する。
- 2 役員任期は1年とする。ただし再任を妨げない。
 - 3 補充の役員任期は、前任者の残任期間とする。
- 第9条 本会に会計監査2名をおく。
- 2 会計監査は、会計事務を監査する。
 - 3 会計監査は、運営委員会において選出する。

(運営委員会)

- 第10条 本会の運営について協議するため、本会に運営委員会をおく。
- 2 運営委員会は、会長、副会長、副会長、県校長会理事、第4条にかかげる各支部の代表者1名および各研究部会の代表者1名をもって構成する。
 - 3 運営委員会は会長が招集する。
 - 4 本会の予算決算は運営委員会で承認する。
- 第10条の2 会長は必要あるときは、支部長、教科部会長、教科外部会長を招集することができる。

(事 務 局)

- 第11条 本会に事務局をおき、庶務部と研究部をおく。
- 2 事務局には事務局長、事務局次長、研究部長、研究部次長をおく。
 - 3 前項の職員は会長が委嘱する。
 - 4 事務局次長は、本会の事務を処理する。
 - 5 事務局次長は、事務局長を補佐し、事務を整理する。
 - 6 別に第4条にかかげる支部および研究部会にそれぞれ部会事務局長をおき、本会の事務を処理する。
 - 7 研究部長は、本会の研究活動を推進する。
 - 8 研究部次長は、研究部長を補佐する。
- (経 理) 本会経費は、会費、補助金、寄付金、その他の収入をもってこれにあてる。
- 第12条 本会経費は、会費、補助金、寄付金、その他の収入をもってこれにあてる。
- (会 計 年 度) 本会の会計年度は、毎年4月1日にはじまり翌年3月31日に終わる。
- 第13条 本会の会計年度は、毎年4月1日にはじまり翌年3月31日に終わる。
- (会 則 の 変 更) 会則の変更は、運営委員会で出席委員の3分の2以上の賛成で議決しなければならない。

附 則

- 1 この会則は、昭和36年5月1日から実行する。
- 2 昭和38年7月5日改正
昭和40年5月26日改正
昭和42年7月20日改正
昭和43年1月17日改正
昭和46年12月7日改正 (昭和47年4月1日より施行)
昭和51年1月30日 (2部会の名称変更)
昭和54年12月17日 (1部会新設)
昭和55年12月16日 (1部会廃止)
昭和63年12月1日 (1部会新設)
平成6年12月13日 (1部会新設)
平成11年12月10日 (1部会新設)
平成12年12月8日 (1部会統合 平成13年4月1日より施行)
平成13年12月7日 (第10条の2追加・一部修正 平成14年4月1日より施行)
平成15年5月30日 (第4条の一部修正)
平成17年12月6日 (支部再編及び部会統廃合のため第4条の一部修正 平成18年4月1日より施行)
平成18年12月14日 (1部会の名称変更 平成19年4月1日より施行)

香川県中学校教育研究会 部会運営規則

(名 称)

第1条 本会は、香川県中学校教育研究会〇〇研究部会という。

(事 務 所)

第2条 本会の事務所は原則として会長が定める学校内におく。

(目 的)

第3条 本会は〇〇に関する研究活動等を通じて香川県中学校教育の振興を図ることを目的とする。

(組 織)

第4条 本会は、香川県内中学校に勤務する教職員をもって組織する。

(事 業)

第5条 本会は、前条の目的を達成するための次の事業を行う。

- 1 中学校〇〇に関する研究活動の育成と振興
- 2 中学校〇〇に関する研究団体および関係機関との連絡提携
- 3 研究会、講演会、講習会の開催
- 4 その他必要な事業

(役 員)

第6条 本会は、会長1名および副会長〇名をおく。

- 1 会長は、本会を代表し、会務を掌理する。
- 2 副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。

第7条 会長および副会長は、理事会において選出する。

- 1 役員の任期は1年とする。
ただし、再任を妨げない。
- 2 補欠の役員の任期は、前任者の残任期間とする。

第8条 本会に、会計監査2名をおく。

- 1 会計監査は、会計事務を監査する。
- 2 会計監査は、理事会において選出する。

(事 務 局)

第9条 本会事務局をおく。

- 1 事務局には、事務局長、会計長をおく。
- 2 前項の職員は、会長が委嘱する。
- 3 事務局長には、本会の事務を処理する。
- 4 会計長は、本会の経理を処理する。

(経 理)

第10条 本会の経費は、本部よりの配分金をもってこれに当てる。
本会経費の運用は、年度当初の予算をもって執行する。

(会 計 年 度)

第11条 本会の会計年度は、毎年4月1日にはじまり、翌年3月31日に終わる。

附 則 この細則は、昭和36年5月1日より実施する。

香中研研究大会開催地区割り当て計画

(平成26年度第2回運営委員会でH30～H38変更、H29.12.1現在)

(アルファベット：県大会 ◎：四国大会・中四国大会 ☆：全国大会)

【教科】

	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38
国語			A◎			D			C		A◎				E			※
社会				A☆		E		B◎				D			C			A
数学			D				A◎		C			E			B◎			A
理科			E◎			A			B		C◎				A			E
音楽			A			B			E◎			A			D			A◎
美術		E◎				A				A◎		D			B			A
保健体育			B◎			A			D			A◎			E			C
技術・家庭	B◎		C			E				A◎		A			D			B
英語			D		A◎				B				A◎		A			E
養護			A			C			E			B			A			D

※国語 H39四国大会開催予定（B 丸亀・仲多度・善通寺）のため変更

【特別の教科・教科外】

	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38
道徳教育			A☆		D			C			E◎			B		A		
特別活動	B			C			A			D			E			A		
生徒指導	A			D			E			C			A			B		
メディア教育		C◎		E			D			B◎			A			A		◎
人権・同和教育	C			A			B			E			A			D		
学校図書館			C◎		A		B				E◎	☆	D			A		
学校保健		C			E			A			B			A			D	
特別支援教育			B◎		A			D			A◎			E			C	
へき地教育	①			②◎							①				②			
学校事務			I				II				III			IV			V	
進路指導		A			B			E			A			C			A	
学校給食		B			C			A			B			A			E	

(備考) A = 高松、B = 丸亀・仲多度・善通寺、C = 坂出・綾歌、D = 小豆・さぬき・東かがわ
E = 三豊・観音寺

- ・へき地教育のブロック割り①高・小・直、②丸・坂・三観の2ブロック
- ・へき地教育は、香小研と共同開催のために、4年ごとの別ローテーション
- ・学校事務は香小研と共同開催ではあるが、3年ごとのローテーション

香中研とはこのような団体です

Q 1 香川県中学校教育研究会（香中研）とは、どのような組織ですか？

- A
- 香中研は昭和36年に発足した研究団体で、結成以来50年あまりの歴史と伝統を誇っています。
 - 県内全域を網羅する7つの支部と、中学校教育のほぼすべての教育活動を網羅する22の教科・教科外研究部会を有しており、研究活動等を通して香川県中学校教育の振興を目的としています。
 - 県内すべての市・町立中学校、県立中学校、国立大学法人附属中学校・特別支援学校と、一部の県立特別支援学校、私立中学校に勤務する多くの教職員が加入しており、平成29年度の会員数は2,121名です。

Q 2 香中研はどのような活動をしているのですか？

- A
- 各支部（7支部）単位で、地域や各学校の実態に即した研究活動等を行っています。
 - 支部会員や県内全域の会員を対象とした研修会や研究大会を定期的で開催し、先進的な研究実践を発表したり日頃の取り組みについて情報交換したりするなどして、研究の成果を広く県下に普及させています。
 - 研究大会等に向けた研究実践の情報交換等を通して、支部内はもとより広く県内会員相互の親睦が深められるとともに、互いに切磋琢磨しながら研究を進めたり研究発表の機会を提供したりすることが、中学校教職員としての仲間づくりにもつながっています。
 - 支部や県レベルで計画的・組織的に事業を展開しているので、香川県の中学校教育の充実や教職員全体の資質・能力の向上に大きく貢献しています。
 - 四国大会や全国大会を本県で開催したり、大会等で研究発表したりする際にも、香中研が推進の中核となっています。

Q 3 教育委員会や中学校長会との関係はどのようになっていますか？

- A
- 香中研は、香川県教育委員会や市町教育委員会、中学校長会との密接な連携の下に運営されています。
 - 香川県教育委員会や市町教育委員会の指導・助言を得ながら、授業研究など学校現場における日々の教育実践を重視した研究活動等を進めています。
 - 教育委員会の教育の基本理念や教育方針、重点項目、教育施策等を具現化する研究活動等を進めています。

Q 4 教育委員会等から香中研に対して、具体的にどのような支援や配慮がされているのですか

- A
- 市・町立中学校の香中研会員には、関係市・町から会費の半額程度が教育関係団体補助金として援助されています。これにより、会員の実質負担額が大幅に軽減されています。
 - 香川県教育委員会から研究委託を受け、研究活動に対する指導・助言を得るとともに、研究活動費の支援も受けています。

※ 組織等に関する詳細については、会則をご覧ください。

編集後記

「研究紀要第58号」を発刊する運びとなりました。原稿を執筆していただいた皆様に心から感謝申し上げます。

さて、本年度は、7つの部会で教育研究会が開催されました。役員並びに関係各位のご支援・ご協力に厚くお礼申し上げます。

なお、本年度は、次のようなことを実践しました。

- ① すべての教科で若年研修を年2回実施しました。若年教員以外も参加できるようにすべての学校に開催案内をしました。
- ② 香川県教育委員会研究団体等研究委託事業として、「『主体的・対話的で深い学び』の視点からの授業づくり」をテーマに、具体的な授業実践を行い、実践事例をまとめました。
- ③ 香川県中学校教育研究会のホームページで本部・各支部・各部会から情報発信を行いました。

本会が会員各位の資質向上にさらに寄与できますよう、今後とも夏季研修会、研究大会の一層の工夫改善を努めていただきますことをお願い申し上げまして、編集後記といたします。

香川県中学校教育研究会「研究紀要第58号」

編集委員長 橋本 征治（本部事務局長）

編集委員 富田 明（本部事務局次長）

香川県中学校教育研究会

研究紀要

第58号

発刊日 平成30年3月12日

編集・発行 香川県中学校教育研究会
事務局 さぬき市立長尾中学校
〒769-2301
さぬき市長尾東954番地

香中研研究紀要

URL <http://www.kachuken.jp/honbu/news/>

印刷所 株式会社美巧社
高松市多賀町1丁目8番10

表紙デザイン：香川県立ミュージアム 主任専門学芸員 橋本 武生



香川県中学校教育研究会

The Society of Education for Junior High Schools of Kanagawa Prefecture

2017

